令和４年度 設楽ダム関連発掘調査成果報告会

新設楽発見伝９

配付資料

日時：令和５年３月４日（土）　　会場：田口特産物振興センター

報告会次第・目次

設楽ダム関連埋蔵文化財包蔵地（遺跡）と周辺遺跡

13 時 30 分～13 時 40 分
令和４年度の設楽ダム関連の発掘調査について　皆見秀久（愛知県県民文化局文化部　文化芸術課　文化財室）　・・・・ 4

13 時 40 分～14 時 10 分
報告１　上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の発掘調査　川添和暁（愛知県埋蔵文化財センター）　・・・・ 6

14 時 10 分～14 時 40 分
報告２　下延坂遺跡の発掘調査　渡邉　峻（愛知県埋蔵文化財センター）　・・・・14

14 時 40 分～15 時 00 分
報告３　滝瀬遺跡の発掘調査　鈴木恵介（愛知県埋蔵文化財センター）　・・・・26

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 休　憩 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

15 時 20 分～15 時 40 分
報告４　大畑遺跡の発掘調査　社本有弥（愛知県埋蔵文化財センター）　・・・・30

15 時 40 分～16 時 00 分
報告５　マサノ沢遺跡の発掘調査　永井宏幸（愛知県埋蔵文化財センター）　・・・・34

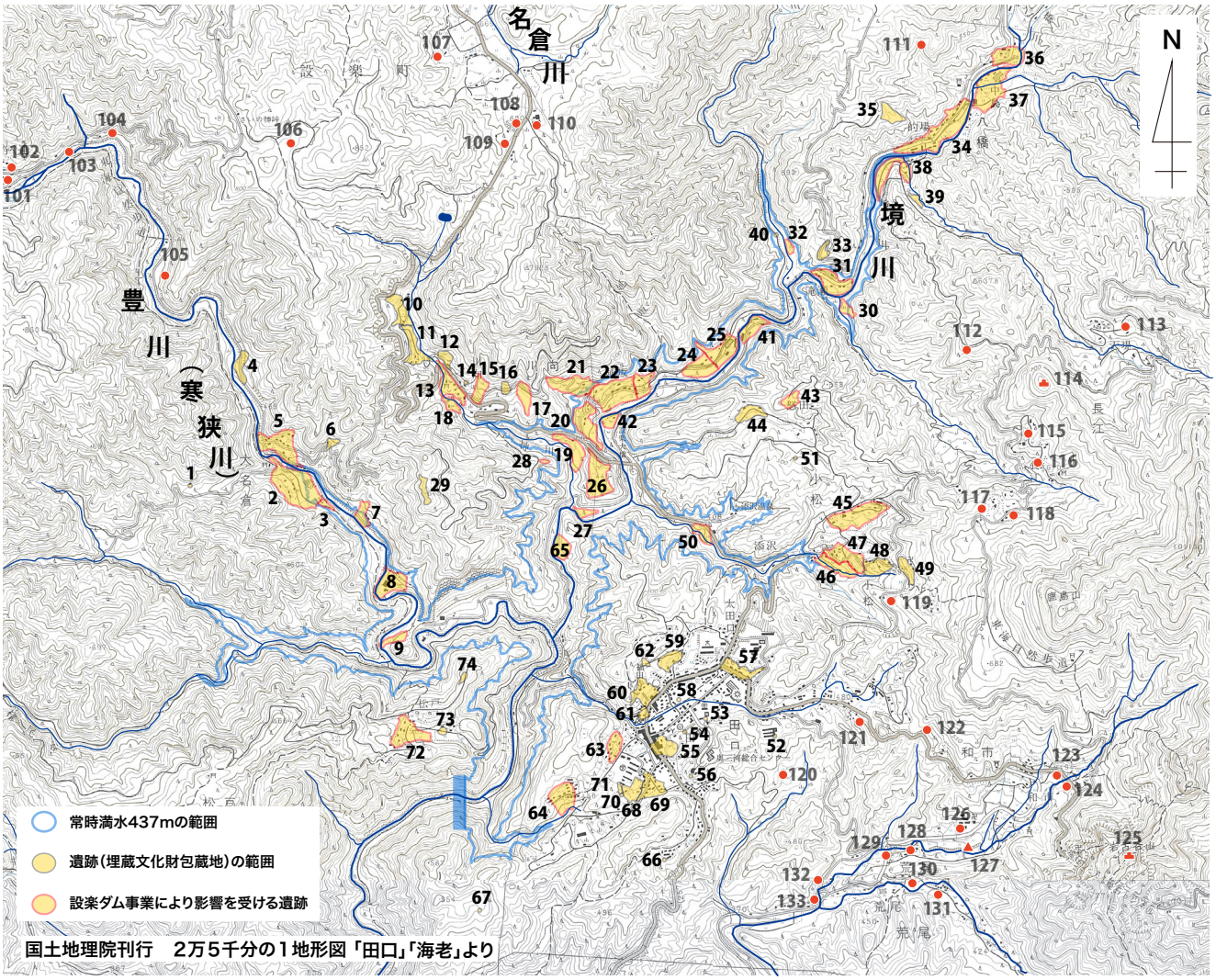
16 時 00 分～16 時 30 分
報告６　大崎遺跡の発掘調査　社本有弥（愛知県埋蔵文化財センター）　・・・・38

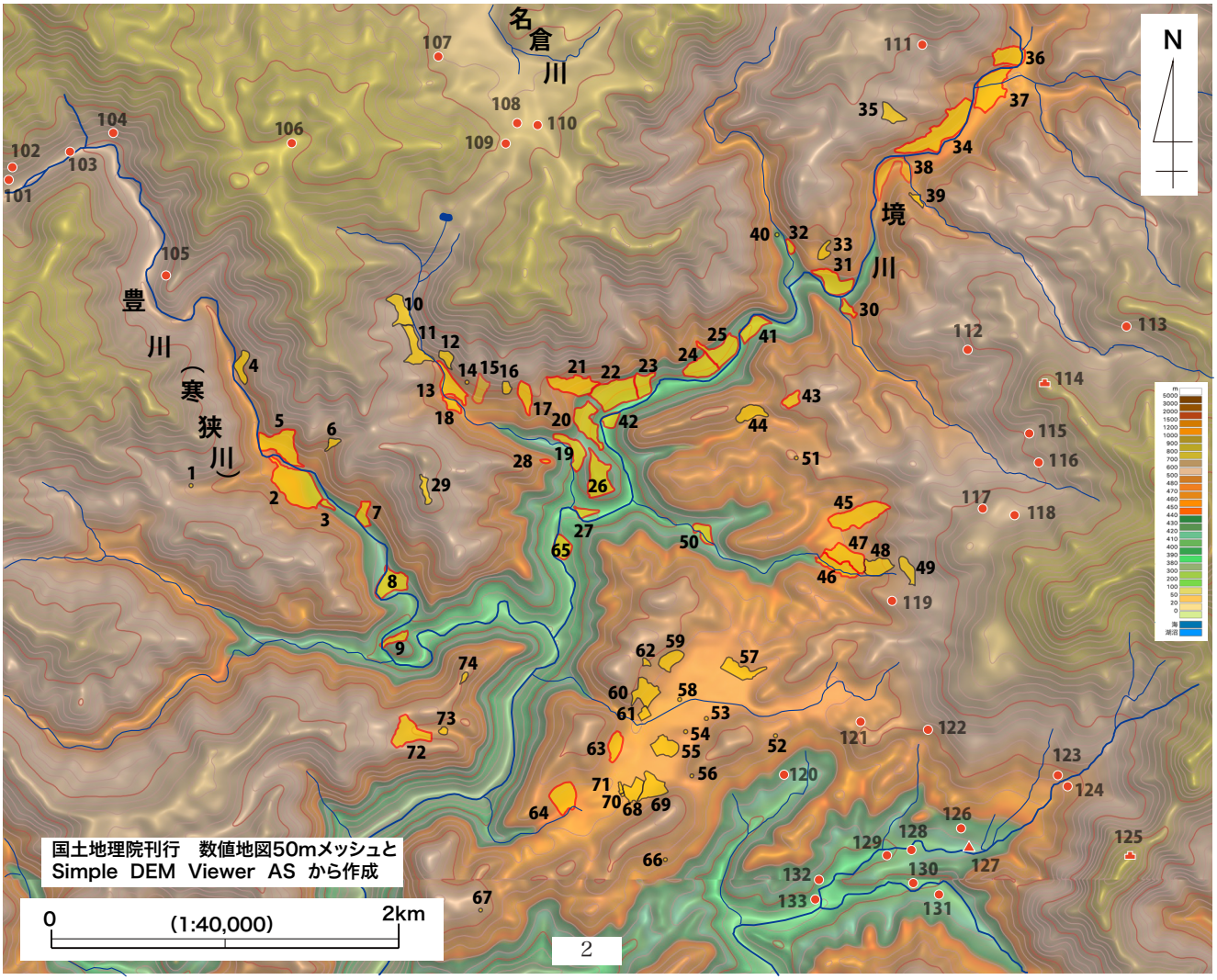
進行・司会　小坂延仁（愛知県埋蔵文化財調査センター）

主催
設楽町教育委員会
国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所
（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県埋蔵文化財調査センター
愛知県県民文化局文化部　文化芸術課　文化財室

表紙：下延坂遺跡 竪穴建物跡（縄文時代中期後半）

設楽ダム関連埋蔵文化財包蔵地（遺跡）と周辺遺跡の位置図（遺跡の番号は左表と一致）





設楽ダム関連埋蔵文化財包蔵地（遺跡）と周辺遺跡の一覧

本発掘調査A（事前調査）実施遺跡　本発掘調査B（全面調査）実施遺跡　発掘調査報告書刊行遺跡

地区（旧大字）	番号	遺跡名	読み	県遺跡番号	所在地	後期旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥・奈良	平安	鎌倉	室町	戦国期―近世初頭	備考
大名倉	1	沢入り遺跡	さわいり	700155	大名倉字沢入り		○	?							
大名倉	2	大名倉遺跡	おおなぐら	700297	大名倉字滝ノ上・滝ノ下・下谷・南貝津		○	○			○	○	○	○	下谷遺跡
大名倉	3	日掛遺跡	ひかげ	700328	大名倉字日掛										
大名倉	4	栢ノ久保遺跡	かやのくぼ	700151	大名倉字新蔵		○								
大名倉	5	西地・東地遺跡	にしじ・ひがしじ	700152	大名倉字西地・東地		○				○	○	○	○	
大名倉	6	後沢遺跡	うしろざわ	700154	大名倉字後沢		○								
大名倉	7	ハラビ平遺跡	はらびだいら	700157	大名倉字ハラビ平		○				○	○		○	
大名倉	8	胡桃窪遺跡	くるみくぼ	700158	大名倉字胡桃窪・丸山		○				○	○	○	○	
大名倉	9	大名倉丸山遺跡	おおなぐらまるやま	700347	大名倉字丸山									?	
川向	10	川向田ノ入遺跡	かわむきたのいり	700351	川向字田ノ入						○				
川向	11	三軒屋遺跡	さんげんや	700159	川向字三ゲンヤ		○					○			
川向	12	梨子谷下遺跡	なしやげ	700329	川向字梨子谷下						○	○			
川向	13	上戸神遺跡	かみとがみ	700160	川向字上戸神・下戸神		○				○	○	○	○	
川向	14	道合遺跡	みちあい	700161	川向字道合		○								
川向	15	川向萩ノ平沢遺跡	かわむきはぎのひらさわ	700352	川向字萩ノ平沢・小万		○				○				
川向	16	道上遺跡	みちあげ	700345	川向字萩ノ平沢・小万		○				○				
川向	17	川向力石遺跡	かわむきちからいし	700353	川向字萩ノ平沢・小万						○	○			
川向	18	川向向山遺跡	かわむきむかいやま	700354	川向字向山									○	
川向	19	大栗遺跡	おおぐり	700163	川向字大栗		○		◇		○		○	○	
川向	20	万瀬遺跡	まんぜ	700165	川向字マンゼ		○	◇	◇		○	○	○	○	
川向	21	大空前遺跡	おおぞらまえ	700166	川向字大空前・新直		○				○	○	○	○	
川向	22	上ヲロウ・下ヲロウ遺跡	かみおろう・しもおろう	700167	川向字上ヲロウ・下ヲロウ・中空		○	○			○	○	○	○	
川向	23	川向近沢遺跡	かわむきちかざわ	700355	川向字近沢・馬道		○				○	○	○	○	
川向	24	石原遺跡	いしはら	700170	川向字石原・ヒチコ		○								
川向	25	下延坂遺跡	しものべさか	700171	川向字下延坂・上延坂		○	○			○	○			
川向	26	大畑遺跡	おおはた	700164	川向字大畑・東貝津		○								
川向	27	川向東貝津遺跡	かわむきひがしがいつ	700348	川向字東貝津	◇	○				○	○			
川向	28	南ヶ岳遺跡	みなみがたけ	700162	川向字南ヶ岳		?				○				
川向	29	光石山候補地	みつ（ひかり）いしやま	城館関連地 089-003	川向字向山									?	
八橋	30	八橋大平遺跡	やつはしおおびら	700349	八橋字大平		○				○				
八橋	31	滝瀬遺跡	たきせ	700174	八橋字タキセ		○	◇					○	○	
八橋	32	根道外遺跡	ねみちそと	700173	八橋字根道外		○								
八橋	33	長久保遺跡	ながくぼ	700331	八橋字長久保		○								
八橋	34	中村遺跡	なかむら	700176	八橋字道上・道下・西路		○				○	○	○		
八橋	35	八橋アテ遺跡	やつはしあて	700356	八橋字アテ		○				○			○	
八橋	36	八橋谷合遺跡	やつはしやわせ	700350	八橋字谷合						○				
八橋	37	向橋遺跡	むこうばし	700178	八橋字向橋						○	○			向林遺跡
八橋	38	永江沢遺跡	ながえざわ	700175	八橋字崩沢		○					○	○		
八橋	39	八橋崩沢遺跡	やつはしなざさわ	700357	八橋字崩沢		○								
八橋	40	境川林道遺跡	さかいがわりんどう	700330	八橋字コハツカ		○								黒曜石の原石のみ採取
小松	41	マサノ沢遺跡	まさのさわ	700172	小松字マサノサワ		○	○							
小松	42	笹平遺跡	ささだいら	700169	小松字笹平		○	○			○				
小松	43	丸瀬遺跡	まるせ	700184	小松字丸瀬		○								
小松	44	小松沢上ゲ遺跡	こまつさやげ	700358	小松字沢上ゲ						○		○	○	
小松	45	柿平遺跡	かきだいら	700189	小松字波根・東沢						○	○	○	○	
小松	46	中屋地遺跡	なかやじ	700190	小松字中屋地						○	○	○	○	
小松	47	下り道遺跡	くだりみち	700191	小松字下り道・中貝津・下中熊		○				○	○	○	○	
小松	48	下中熊遺跡	しもなかぐま	700192	小松字下中熊・中貝津						○	○	○	○	
小松	49	上中熊遺跡	かみなかぐま	700193	小松字上中熊						○	○	○	○	
田口	50	添沢遺跡	そえざわ	700188	田口字添沢		○				○	○			
田口	51	添津遺跡	そえづ	700187	田口字添津		○	?							
田口	52	一ノ橋遺跡	いちのはし	700197	田口字杉平向		○								
田口	53	向木屋遺跡	むかいぎや	700201	田口字向木屋			○							
田口	54	城下遺跡	しろした	700202	田口字小木山							?			
田口	55	天白遺跡	てんぱく	700203	田口字広貝津		○	○				○			
田口	56	向木屋城跡	むかいぎやじょうあと	700206	田口字向木屋									?	
田口	57	東遺跡	ひがし	700198	田口字谷下・白根土							○	○	○	
田口	58	稲場遺跡	いなば	700333	田口字辻前		○								
田口	59	中島遺跡	なかじま	700199	田口字中島		○					○		○	○
田口	60	居立遺跡	いだて	700200	田口字居立			○	○					○	○
田口	61	半兵衛屋敷（田口村古屋敷）	はんべえやしき（たぐちむらふるやしき）	703001	田口字小貝津										○
田口	62	田口大久保遺跡	たぐちおおくぼ	700359	田口字大久保		○								
田口	63	田口西貝津遺跡	たぐちにしがいつ	700360	田口字西貝津						○	○	○	○	
田口	64	田口シウキ遺跡	たぐちしうき	700361	田口字シウキ						○	○	○		
田口	65	大崎遺跡	おおさき	700195	田口字大崎		○				○			?	
清崎	66	根ノ後遺跡	ねのご	700344	清崎字根ノ後		○								
清崎	67	大峯遺跡	おおみね	700226	清崎字大峯		○	?			○	○			
清崎	68	広畑遺跡	ひろはた	700204	清崎字広畑・狐洞						○	○	○	○	
清崎	69	萩平遺跡	はぎだいら	700205	清崎字山本・水口									○	
清崎	70	萩平村古屋敷	はぎだいらふるやしき	703005	清崎字狐洞									?	
清崎	71	重原藩田口代官所	しげはらはんたぐちだいかんしょ	703002	清崎字狐洞										近代
清崎	72	松戸遺跡	まつど	700334	松戸字家廻・向畑						○	○	○	○	
清崎	73	松戸下畑遺跡	まつどしたばた	700362	松戸字下畑							○	○		
清崎	74	松戸城跡	まつどじょうあと	703004	松戸字イサケトチ									?	
東納庫	101	大家下遺跡	おおやした	700147	東納庫字岩クラ							○	○		
東納庫	102	澄川口遺跡	すみかわぐち	700146	東納庫字澄川口								○		
東納庫	103	岩クラ遺跡	いわくら	700148	東納庫字岩クラ		○								
東納庫	104	長根遺跡	ながね	700149	東納庫字長根		○								
東納庫	105	長尾遺跡	ながお	700150	東納庫字長尾		○								
東納庫	106	菅沢山遺跡	すげさわやま	700143	東納庫字菅沢山			○							弥生は水神平式
川向	107	モロ田遺跡	もろだ	700137	川向字モロ田				○	○	○				
川向	108	市場口遺跡	いちばぐち	700138	川向字市場口	○									
川向	109	西長沢遺跡	にしながさわ	700139	川向字市場口		○								
川向	110	庄之子呂遺跡	しょうのころ	700140	川向字庄之子呂		○								
八橋	111	八橋杉平遺跡	やつはしすぎたいら	700177	八橋字杉平		○								
長江	112	御堂山遺跡	みどうやま	700181	長江字御堂山						○	○			
長江	113	天堤遺跡	あまづつみ	700180	長江字天堤			○							弥生は水神平式
長江	114	長江城跡	ながえじょう	700296	長江字松ヶ根							○	○		
長江	115	尊手平遺跡	そんでびら	700182	長江字尊手平		○								御物石器？
長江	116	本江遺跡	ほんえ	700183	長江字本江						○	○			
長江	117	寺トコ遺跡	てらとこ	700185	長江字田平							○			
長江	118	田平遺跡	ただいら	700184	長江字田平							○	○		
小松	119	下湯分沢遺跡	しもゆぶんざわ	700194	小松字下湯分沢		○					○			
田口	120	オリジ遺跡	おりじ	700207	田口字オリジ		○								
小松	121	小松杉平遺跡	こまつすぎだいら	700196	小松字杉平		○				○	○	○		
荒尾	122	寒相遺跡	かんぞう	700208	荒尾字寒相			○							弥生は水神平式含む
和市	123	清水遺跡	しみず	700209	和市字清水		○					○	○		
和市	124	和市場遺跡	わいちば	700210	和市字和市場		○						○		
荒尾	125	岩古谷城址	いわこや	700211	荒尾字岩古谷									○	
荒尾	126	宝ノ久保遺跡	ほうのくぼ	700212	荒尾字宝ノ久保		○					○			
荒尾	127	鐘鋳場跡	かねいば	700298	荒尾字欠田										近世
荒尾	128	欠田遺跡	かけだ	700213	荒尾字欠田		○						○		
荒尾	129	上杉沢遺跡	かみすぎのさわ	700214	荒尾字上杉沢		○								
荒尾	130	中村遺跡	なかむら	700215	荒尾字下貝津		○				○		○		
荒尾	131	上万場遺跡	かみまんば	700216	荒尾字上万場		○								
荒尾	132	野々瀬遺跡	ののせ	700217	荒尾字野々瀬		○								
荒尾	133	川角遺跡	かわかど	700218	荒尾字川角		○						○		

※　○・？は、詳細分布調査および遺跡地図による。◇は発掘調査で新たに見つかった時代

令和４年度　設楽ダム関連の発掘調査について

愛知県県民文化局文化部 文化芸術課 文化財室　皆見秀久

１．はじめに

２．令和年度設楽ダム関連の発掘調査について

○令和４年度発掘調査遺跡一覧

2･3頁遺跡番号	遺　　跡　　名	発掘調査の種別	令和４年度調査面積（㎡）
22	上ヲロウ遺跡・下ヲロウ遺跡	本発掘調査B	340
25	下延坂遺跡	本発掘調査B	4,700
26	大畑遺跡	本発掘調査B	2,080
31	滝瀬遺跡	本発掘調査B	1,395
41	マサノ沢遺跡	本発掘調査B	1,000
65	大崎遺跡	本発掘調査B	2,985
合　　計			12,500

３．開発事業と埋蔵文化財に関する諸手続きについて

（１）有無確認・現地踏査

○遺跡地図、資料・文献等で確認した上で現地踏査を行い、地表面を観察することで遺物の散布状況を確認し、遺跡の有無及び現状を把握するための調査をします。

（２）試掘・確認調査

○有無確認等で得た情報をもとに、地下の埋蔵文化財の状況を確認するため、必要な箇所を部分的に掘削する小規模な調査です。調査する場所が遺跡として周知されているか否かで、「試掘調査」と「確認調査」に区分されます。重機あるいは人力で掘削作業を行います。

【試掘調査】遺跡として台帳・地図に未記載で、周知もされていない場所について、「遺跡の有無」や「範囲・種類・残り具合」等を確認する調査です。

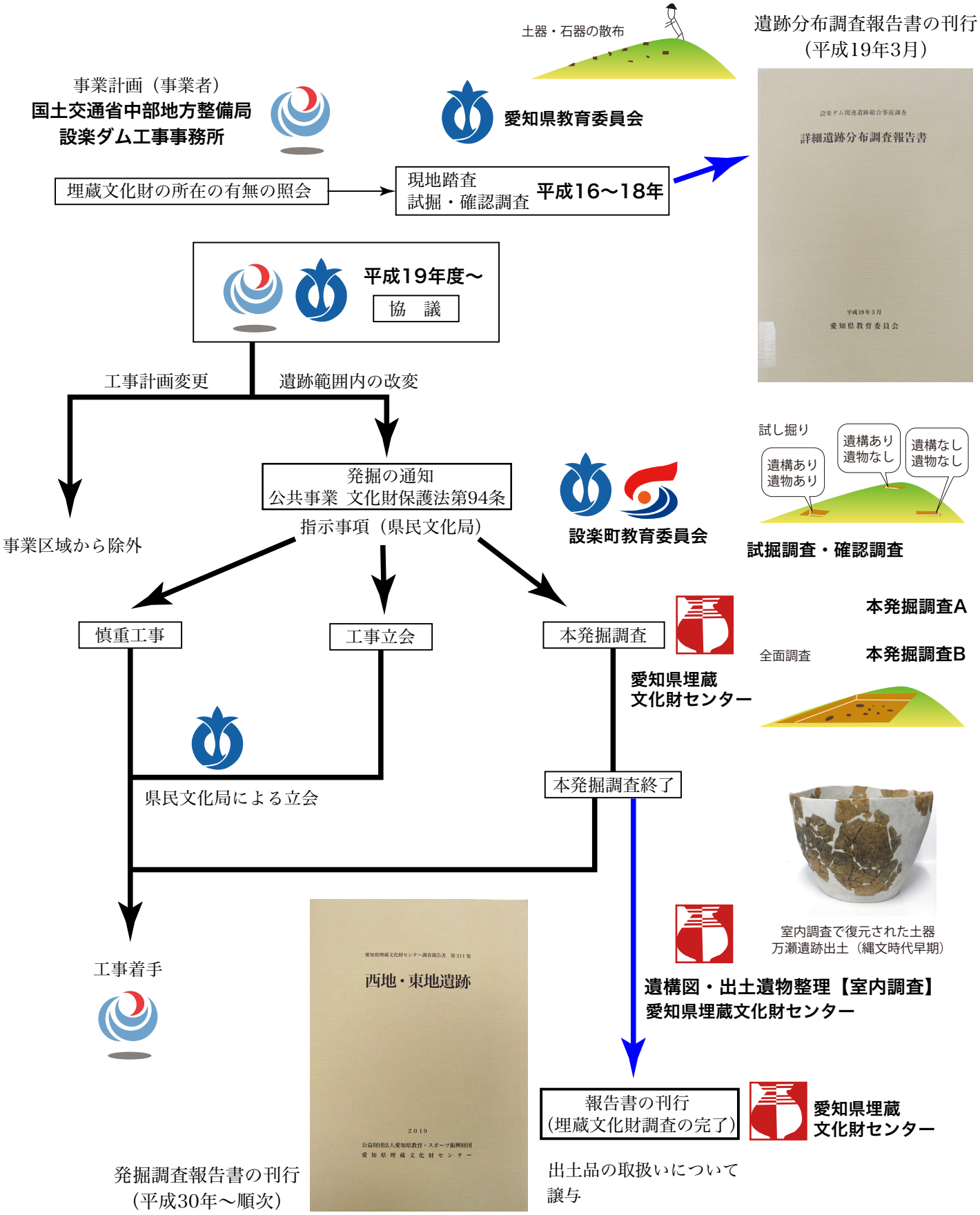
※遺跡がある場合、調査結果から、遺跡の取扱い（本発掘調査・工事立会・慎重工事）を決定します。

【確認調査】遺跡として既に記載され、周知されている場所について、「遺跡の範囲・種類・残り具合」等を確認する調査です。遺跡の取扱い（本発掘調査・工事立会・慎重工事）を決定します。

（３）本発掘調査

○公共事業によって滅失する遺跡の記録保存のために行う発掘調査です。調査対象地全面を発掘調査する「本発掘調査Ｂ」を基本とし、Ｂの実施前には、遺跡範囲・規模をさらに詳細に確認するために、事前調査「本発掘調査Ａ」を行います。

開発事業と埋蔵文化財に関する諸手続について



開発事業と埋蔵文化財調査の流れ

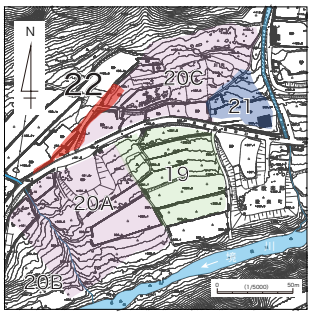
上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター　川添 和暁

所在地：北設楽郡設楽町川向字上ヲロウほか（北緯35度06分51秒 東経137度34分05秒）
調査期間：令和４年６月～７月
調査面積：340㎡
調査担当者：永井宏幸・川添和暁

立地と環境

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡は、境川北岸の緩斜面上に立地します。当地の地盤は、斜面の上方からの幾度かの扇状地堆積（土石流堆積）が幾重にも重なってできています。標高は、調査前の地表で385～408mで、遺跡中央に貫くように伸びる県道432号小松田口線の北側（山側）に、かつての中世以降のヲロウ集落が営まれていました。

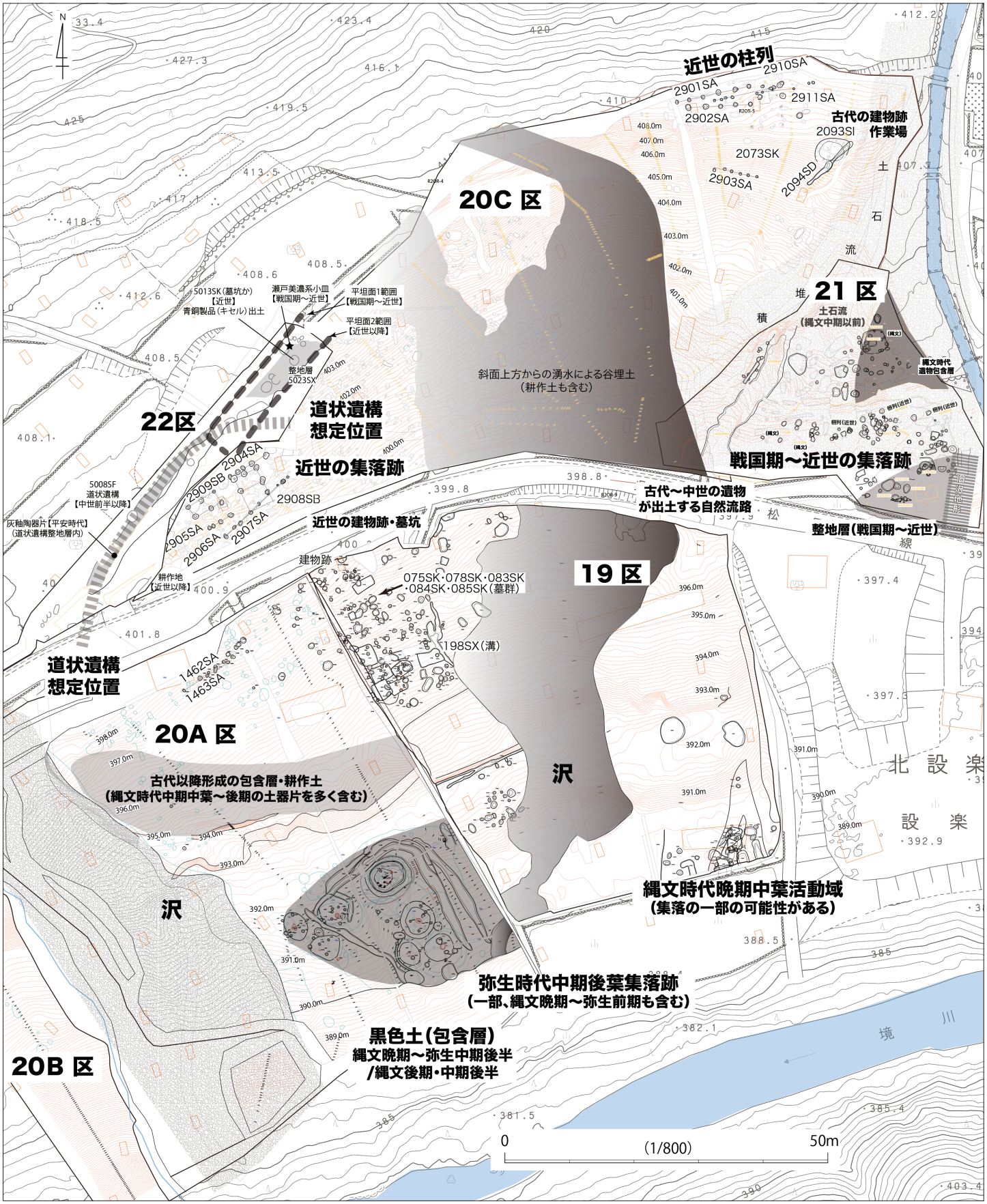


上ヲロウ・下ヲロウ遺跡
調査区位置図

これまでの調査の成果

これまで、令和元（2019）年度は調査面積3,600㎡、令和２（2020）年度は同10,525㎡、令和３（2021）年度は同1,020㎡と、３ヶ年度に渡って発掘調査が行われました。令和２（2020）年度では県道と沢を境に、20A区・20B区・20C区と三区に分けての調査となりました。これまでに、縄文時代中期中葉以降、近世に至るまでの遺構・遺物が確認されています。特に令和２（2020）年度の20A区では、土石流堆積によって覆われた、弥生時代中期後葉（B.C.1世紀頃）の集落跡が見つかり、大きな話題となりました。令和３年度の調査（21区）では、戦国期以降の整地層などが見つかるなど、かつてのヲロウ集落の一端を確認することができています。

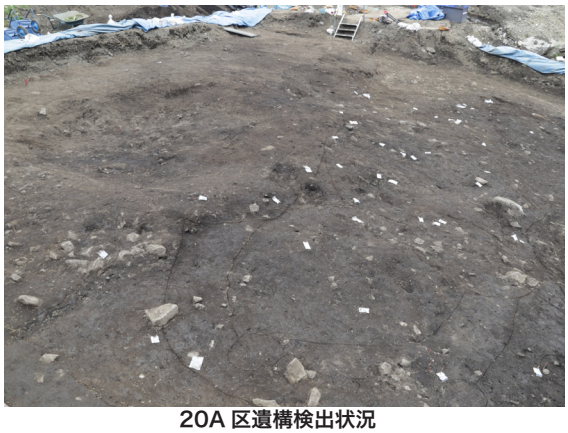
21区 整地層内石列4033SX（白矢印）【戦国期～近世】



上ヲロウ・下ヲロウ遺跡 全体図

20A 区表土剥ぎの様子

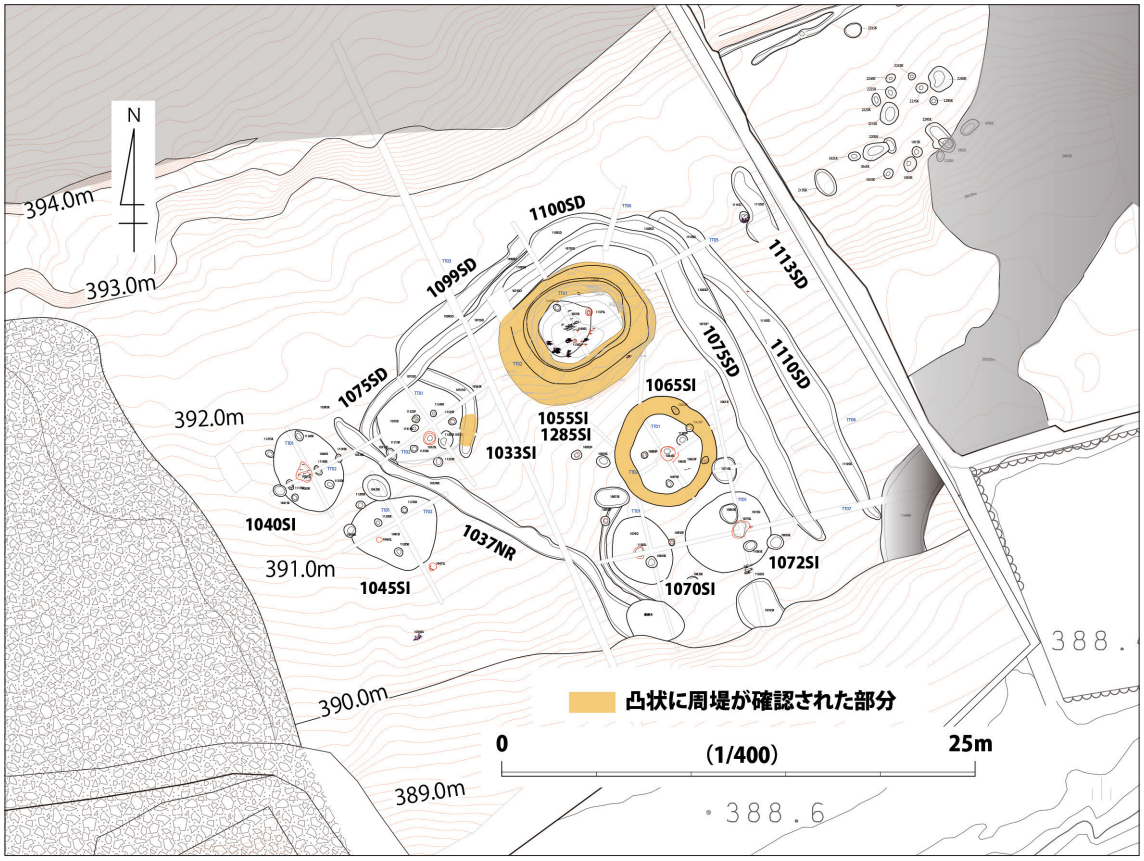
20A区では表土下に最大厚1mほどの土石流堆積層が全面に確認されました。それを除去すると土器・石器のほか、焼土の広がりなどを確認することができました。地形の凹凸を精査したところ大きな凹みを見つけることでき、中から炉跡のほか弥生土器がまとまって見つかりました。この凹地周囲の高まりは、周堤といわれる人為的に作られた高まりで、これ自体が弥生時代の建物跡であることが明らかとなりました。



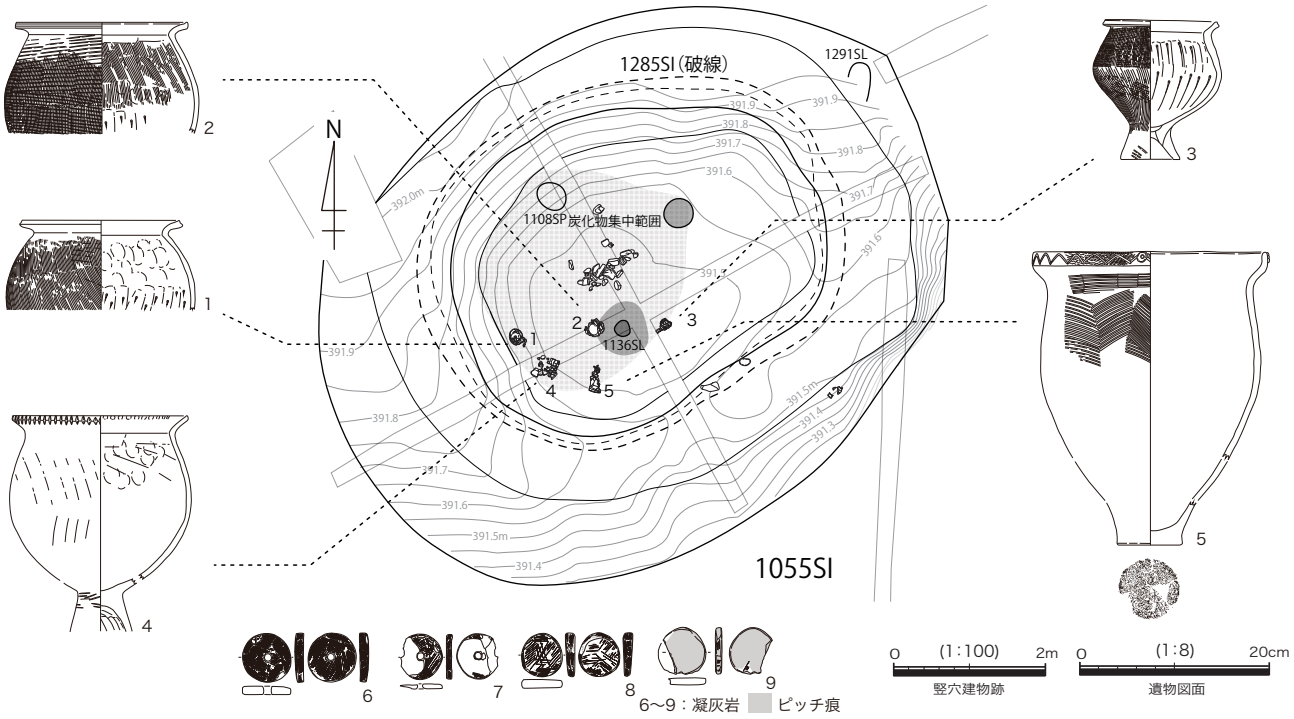
20A 区遺構検出状況

弥生時代竪穴建物跡 1055SI（南東より）

20A 区弥生時代集落跡全景（東より　白矢印位置が 1055SI）



上ヲロウ・下ヲロウ遺跡 20A 区　弥生時代遺構 全体図



20A 区　1055SI（周堤が確認された竪穴建物跡）

20A 区 1152SI【縄文時代中期後半】（南より）

1152SI 石囲炉跡内の様子【縄文時代中期後半】（南より）
炉の機能終了後に土器片が敷かれています。

20A 区 1449SI【縄文時代後期】（南東より）
炉の中央に土器が入れ子状に埋納されていました。

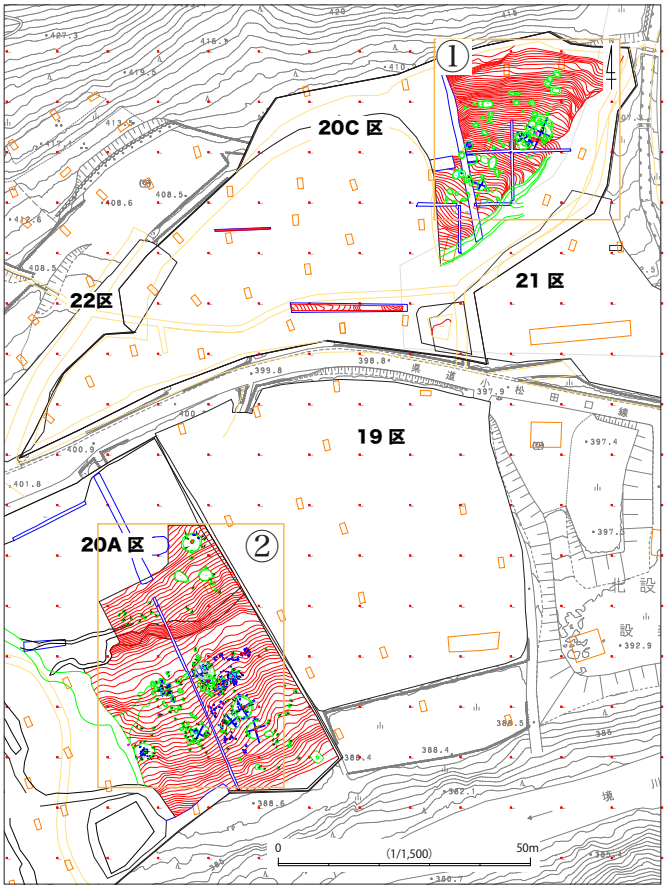
20A 区配石・集石遺構検出状況
【縄文時代後期～晩期】（南より）

20C 区竪穴建物跡 2703SI【縄文時代後期】（西より）

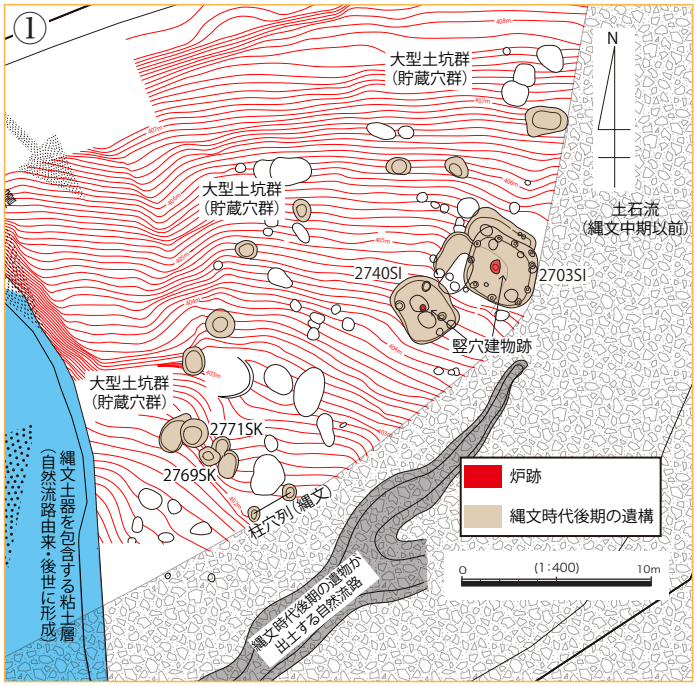
20A区では弥生時代集落跡の下、20C区では古代以降の集落跡の下に、それぞれ縄文時代の集落跡がみつかりました。20A区では、周堤が残されていた弥生時代の建物跡1055SI付近から縄文時代後期～晩期の配石・集石遺構が見つかり、竪穴建物跡も確認されました。大型の土坑は墓坑が主体であったようです。一方、20C区では縄文時代後期の竪穴建物跡のほか、貯蔵穴と思われる大型の土坑がまとまって見つかりました。

20C 区竪穴建物跡 2703SI 内出土磨製石斧【縄文時代後期】

20C 区貯蔵穴 2742SK（南より）



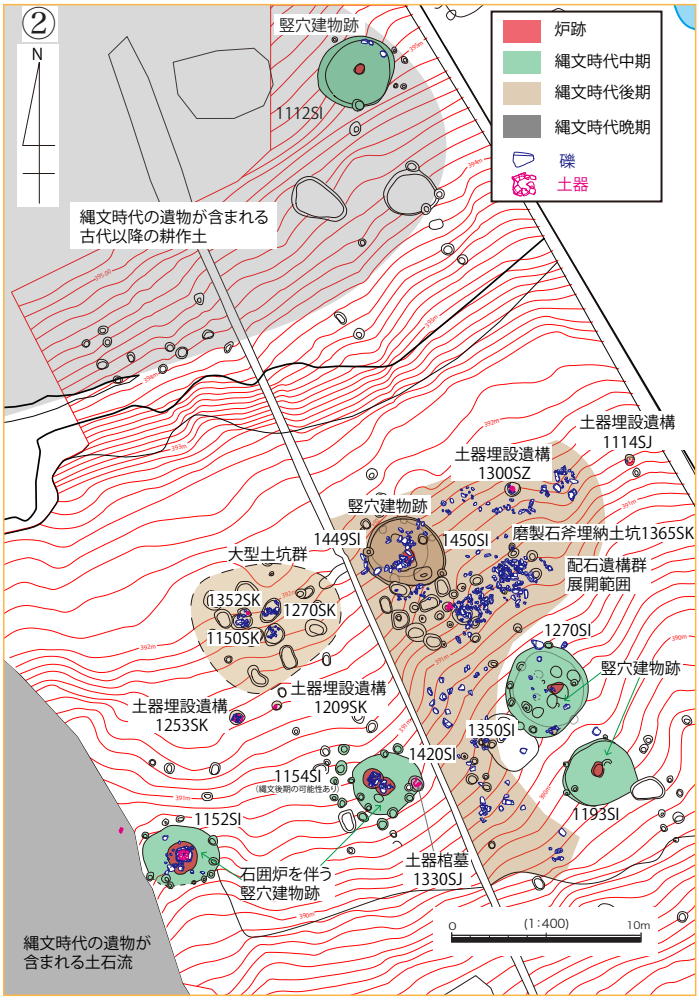
20A 区・20C 区　縄文時代中期・後期遺構位置図



20C 区　縄文時代後期遺構位置図

20A 区土器棺墓 1330SJ【縄文時代晩期】(南西より)

20A 区土坑 1365SK【縄文時代晩期】(北東より)



20A 区　縄文時代後期遺構位置図

令和４年度の調査成果

今年度の調査区22区は、県道432号小松田口線の北側、調査区20C区に接して遺跡範囲の北西端340㎡に設定されました。その調査成果は、以下の表のようになります。

時代・時期	遺構	遺物
縄文時代後期	竪穴建物跡?・貯蔵穴	縄文土器・石器（剥片）
古代～中世前半	道状遺構	灰釉陶器片・山茶碗類（碗・小皿）・土師鍋片
中世後半（戦国期）～近世前半	平坦面・整地層	瀬戸美濃系小皿など
近世	土坑（墓坑か）	青銅製品（キセル片）

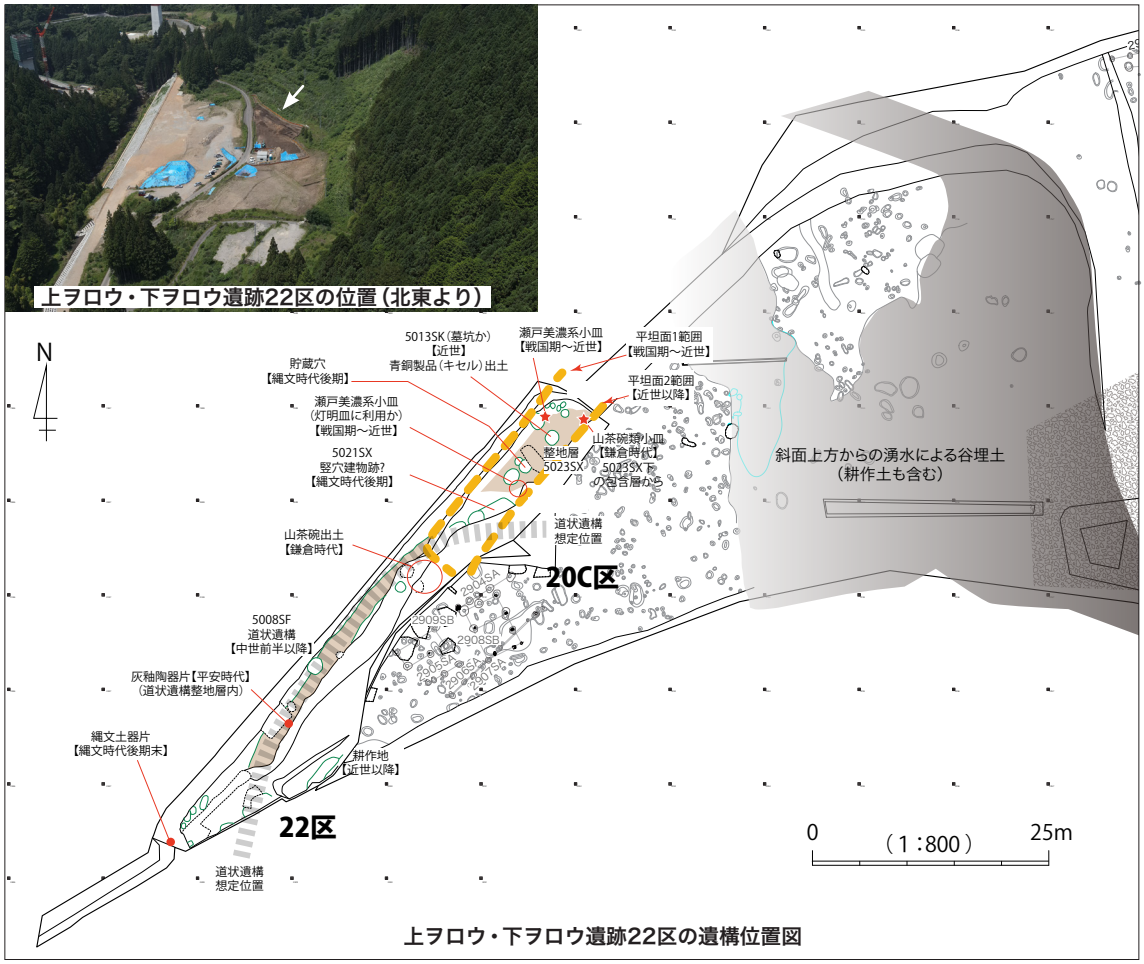
特に注目される成果は、かつてのヲロウ集落に入る道状遺構が見つかったことです。道状遺構は、もともと浅い凹みの溝状のところに盛土が充填され、整地層が形成されていました。層には片麻岩礫のほか、炭化物粒や焼土が散在しており、灰釉陶器片や山茶碗・土師鍋片も出土しています。この道状遺構は、北東側に昇るところで、戦国期から江戸時代の平坦面造成によって、途切れていました。当地は明治時代初期の地籍図や近世後半の村絵図にも、集落に入る道の存在が記載されており、今回の発掘調査でその存在が証明されたことになったのです。

22区 道状遺構 5008SF　検出状況（南西より）

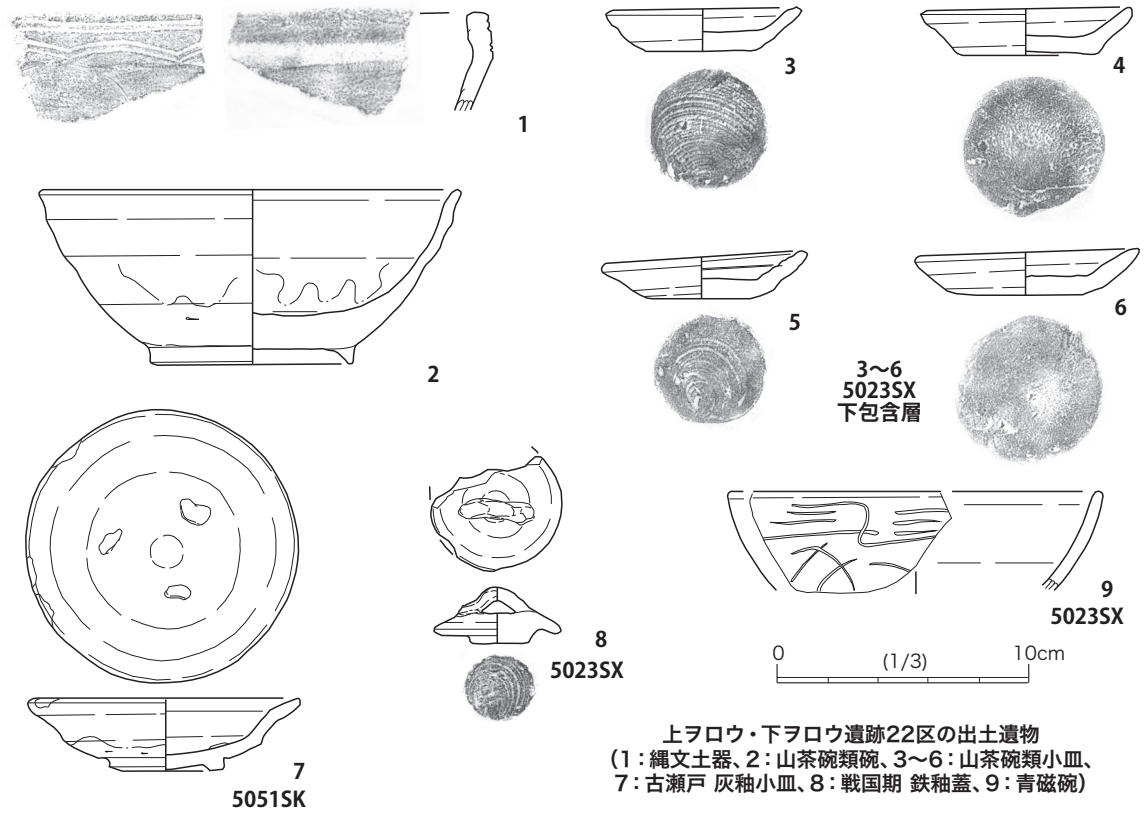
22区 道状遺構 5008SF　土層断面（北東より）

整地層5023SX内土坑5051SK出土 灰釉小皿【室町時代】

22区 整地層5023SX下出土　山茶碗類小皿【鎌倉時代】



上ヲロウ・下ヲロウ遺跡22区の遺構位置図



上ヲロウ・下ヲロウ遺跡22区の出土遺物
（1：縄文土器、2：山茶碗類碗、3～6：山茶碗類小皿、
7：古瀬戸 灰釉小皿、8：戦国期 鉄釉蓋、9：青磁碗）

下延坂遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター　渡邉　峻

所在地：北設楽郡設楽町川向字上延坂・下延坂（北緯35度06分58秒 東経137度34分28秒）
調査期間：令和４年６月～令和５年２月
調査面積：4,700㎡
調査担当者：永井宏幸・川添和暁・渡邉　峻

立地と環境

下延坂遺跡は境川右岸の河岸段丘から山麓の丘陵斜面に立地し、遺跡の中央に町道79号が通っております。調査は、令和２年より行っています。令和2（2020）年度では町道79号の西側（山側）の北東部を20A区、南西部を20B区として、計3,130㎡の調査を行いました。令和3（2021）年度では前年の調査区20A区の山側の続きを21A区、境川右岸の川岸から町道79号までの間を、21B区・21C区と設定し、計6,800㎡の調査を実施しました。令和4（2022）年度では22A区・22B区・22C区の三調査区を設定しました。22A区は令和3年度の21C区の西側と町道79号の間にある町道法面部分に当たります。22B区は22A区に南接する調査区で、町道沿いの旧宅地部分を22Ba区に、残る南側を22Bb区としました。22C区は22Bb区に南接する調査

下延坂遺跡　全景(北東より)

区で、遺跡西端の沢までの間に設定されました。21A区と22A区の調査区の大部分は山の斜面に沿った石垣が残る棚田により削平されていました。また、21B区と21C区、22Ba区にはかつて調査区に存在した養鶏場のコンクリート基礎が存在し、22B区と22C区を含む南側は植林による杉林が形成されていました。

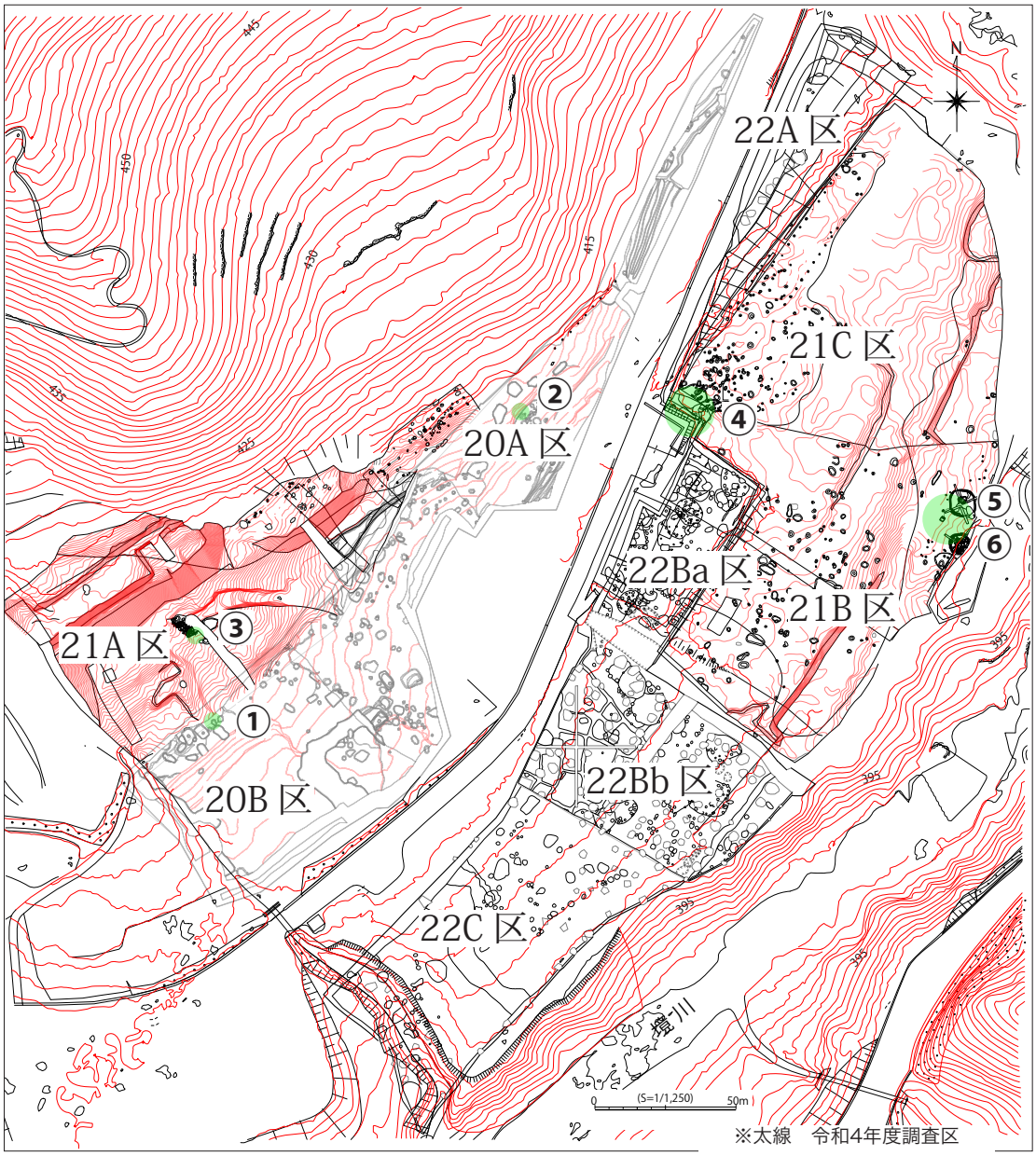
調査の成果

これまでの調査で、下延坂遺跡の調査では大きく分けて縄文時代早期、縄文時代中期、縄文時代後～晩期、縄文時代晩期～弥生時代前期および弥生時代中期、平安時代（古代）、鎌倉～室町時代（中世前半）、戦国期～江戸時代 (中世後半～近世) の７時期の遺構・遺物が確認されています。以下、調査年度・調査区ごとに成果をご説明します。

（１）令和２年度・３年度の調査成果

令和２（2020）年度の調査では縄文時代晩期から弥生時代前期の竪穴状遺構、土坑を確認しました。出土遺物には縄文土器および弥生時代の条痕文土器、打製石斧、石匙、剥片などがありました。弥生時代中期後葉の遺構としては、20B 区西側で土坑 179SK を確認しました。この土坑の中からは、弥生土器の櫛条痕深鉢が出土しました。鎌倉時代～室町時代の遺構としては、20A 区中央部に土坑を確認しました。これらの土坑は山の斜面を棚状に削り出した平坦面に２～３列の列状に並んで見つかりました。これらの土坑には伊勢型鍋や羽付鍋などの土師器鍋、鉄製品が出土するものもありました。

令和３年（2021）度の調査では 21A 区北側で一部で縄文時代後・晩期の土器片や石器を多数含む黒色砂質シルト層の遺物包含層が確認されました。この黒色土層の上面からは晩期の土器棺墓が２基検出されました。また、その下層からは、縄文時代後期初頭の貯蔵穴が１基検出されています。21Ba 区西側では縄文時代中期の埋甕１基、東側の 21C 区境付近では縄文時代中期後半の竪穴建物跡が２基検出されました。特に、竪穴建物跡の埋土内に多量に礫が入れられた様子を詳細に調査できたのは、特筆されます。南端では、縄文時代早期前半の土器も出土しました。21C 区南西側では縄文時代中期～後期の土器・石器が出土し、竪穴建物跡も３基確認されました。また、さらに下層からは縄文時代早期後半の遺物包含層が確認され、複数筋の自然流路の中からも、土器・石器がまとまって見つかりました。



下延坂遺跡全体図（囲み数字は17頁写真に対応）

（2）令和 4 年度の調査成果

令和 4（2022）年度の調査では、保存が良好であった 22Ba 区において特に多くの成果が確認されました。まずは 22Ba 区の成果についてご説明いたします。

（2- 1）22Ba 区 1 面目【縄文時代後期～近世】

22Ba 区は遺構面を 3 面にわたり確認いたしました。上から順に黒褐色・褐灰色・黄褐色の各土層上面で確認した。1 層目の黒褐色の層では縄文時代後期から古代 (平安時代)・近世（江戸時代）までの遺物・遺構が確認されました。

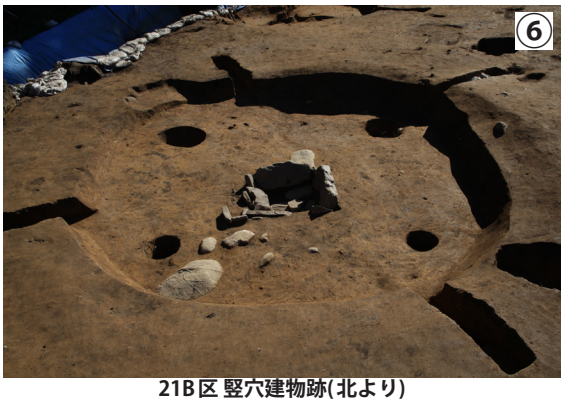
20B区 弥生土器出土状況(東より)

20A区 羽付鍋出土状況(南西より)

21A区 土器埋設遺構出土状況(北東より)

21C区 竪穴建物跡(北より)

21B区 集石遺構(北西より)



21B区 竪穴建物跡(北より)

4202SI は 22Ba 区 1 層目の中央北寄りで検出された直径約 4m のやや楕円形な竪穴状遺構です。遺構の壁面に壁柱穴と思われる複数の土坑と、竪穴の中央北寄りに炭化物が比較的多い土坑が確認され、これが炉跡と思われます。この炉跡付近を掘削中に床面から灰釉陶器(かいゆうとうき)の底部(ていぶ)が確認されたので、時期は古代 (平安時代) と推測されました。

4161SI は 22Ba 区 1 層目の北側で検出された、令和 3 年度の調査区 21B 区との境に見つかった竪穴建物跡です。直径は推定で 4 m 以上の隅丸方形の形と思われます。複数の壁柱穴と炉跡と思われる炭化物を伴う土坑が検出され、縄文土器の土器片 (後期初頭) と石器 (剥片) が出土しました。

4215SI は 22Ba 区 1 層目の中央南寄りで検出された直径 4m 前後の円形の竪穴建物跡です。複数の壁柱穴と、中央やや東寄りに炭化物を伴う炉跡と思われる土坑が確認されました。遺物は少ないですが、後期初頭の土器片と石器 (剥片) が数点確認床面で確認されています。

4126SI は 22Ba 区 1 層目の南側で検出された、直径 3.5m 前後のやや楕円形の竪穴建物跡です。複数の壁柱穴と、中央に炭化物をわずかに伴う炉跡と思われる小さな土坑が確認されました。また、竪穴建物跡の埋土の中や 4216SI を切る形で存在する土坑 4373SK では多数の拳大の礫が集中して検出されたことから、使い終わった竪穴に礫を廃棄していたのかもしれません。

その他この面からは、弥生時代後期の土器片や、中世陶器が出土した土坑なども見つかっています。

（2 - 2）22Ba 区 2 面目【縄文時代中期後半～後期】

2 面目の褐灰色上面からは主に縄文時代中期後半の遺物・遺構が確認されました。

5110SI は 22Ba 区の 2 面目の中央東寄りで検出された直径 3.5m 前後の円形の竪穴建物跡です。壁柱穴と共に炉跡と思われる、石の抜き取り痕がみられる土坑が床面の中央やや南寄りで検出されました。遺物は縄文時代中期後半と思われる土器片と石器 (剥片) が数点確認され、炉跡の付近で竪穴の埋土から石棒（せきぼう）と思われる円柱状の石器が確認が出土しました。

5100SX は 22Ba 区の 2 面目の中央西寄りで検出された直径 5m 近い隅丸方形状の遺構です。しかし 5100SX は複数の大型土坑に削平されており、柱穴や炉跡などの付属施設ははっきりとは確認されませんでした。5100SX からは下延坂遺跡の調査では最も多くの遺物が見つかっています。5100SX は、複数の大型土坑が重複するものと思われますが、床面の検出段階でおよそ 80 点近い残りの良い良好な遺物を確認しました。土器は縄文時代中期後半のものがほとんどで、石器は多数の剥片と、黒曜石（こくようせき）の石鏃（せきぞく）も数点確認されました。また、この竪穴状遺構の床面で検出された径 50 ㎝前後の土坑 5255SK では、5110SI で確認されたような石棒と思われる円柱状の石器が検出されました。

5301SX は 22Ba 区北側より検出された多数の巨礫と遺物を伴う谷状の遺構で、後で述べる 5346SI の凹地内に形成された堆積層で、22Ba 区北側から 21C 区の南側の境に向け広がっています。巨礫は 2 層に別れ、どちらからも縄文中期後半の土器片やそれに伴う石器が多く出土しました。石器は剥片や丸石（まるいし）、台石（だいいし）などの他に、

22Ba 区 竪穴建物跡4126SI

22Ba 区 竪穴建物跡4202SI

22Ba 区 竪穴建物跡4215SI

22Ba 区 竪穴建物跡4161SI

下延坂遺跡 22Ba 区 1 面目【縄文時代後期～近世】（緑色は竪穴建物跡など）

22Ba区 5301SX(北より)

巨礫層の１層目からは縄文時代中期後半の土器と一緒に線刻(せんこく)のある石製品(せきせいひん)（⑫）が、巨礫層の２層目からは 20 点以上もの黒曜石の剥片と、1 点の石鏃を確認しました。線刻のある石製品はこの時代のものとしては貴重な資料で、岩偶岩版類(がんぐうがんばんるい)の一種である可能性が考えられます（46・47 頁参照)。5301SX は２層目の調査段階では谷状の遺構と思われていましたが、22Ba 区３層目から大量の焼土と炭化した木材、その更に下層から石囲炉を伴う竪穴建物跡が検出されました。このことから本来は谷状の遺構ではなく、21B 区の調査区で確認されたような竪穴建物跡の凹地を利用した集石遺構(しゅうせきいこう)と考えられます。

（2- 3）22Ba 区３面目【縄文時代中期中葉～後半】

３層目の黄褐色の層からも主に縄文時代中期後半の遺物・遺構が、一部で中期中葉の遺物も確認されました。

5346SI は２層目の 5301SX の調査の際に、大量の焼土と炭化した木材を伴う層と、その更に下層から石囲炉を伴う層が検出されたため、改めて再度周辺を精査した結果、22Ba 区北側で検出された竪穴建物跡です。直径は推定で 3.5m 前後の 4 本柱の支柱穴と、中央に石囲炉を伴う隅丸方形状の形が想定されます。遺物は石囲炉の中より複数の石器 (剥片) や縄文時代中期後半の土器を確認しましたが、２層目で確認した礫層ほどは遺物は確認されませんでした。また、5346SI の上層で確認した焼土や炭化物を含む層も、竪穴建物の一段階前の面であった可能性もあります。

22Ba 区 5301SX 線刻のある石製品出土状況(西から)

22Ba 区 5110SI 石棒出土状況(南から)

22Ba 区 竪穴建物跡5110SI(東より)

22Ba 区 5100SX 遺物出土状況(東より)

22Ba 区 調査区２面目 5100SX 石棒(中央)出土状況(東から)

22Ba 区 竪穴状遺構5100SX完掘状況(東より)

下延坂遺跡 22Ba 区 ２面目【縄文時代中期後半～後期前葉】(緑色は竪穴建物跡など)

7028SI と 7029SI は 22Ba 区西側より検出された、共に柱穴と石囲炉を伴う竪穴建物跡です。先行する 7029SI を 7028SI が切る前後関係になります。7028SI は推定で直径 4 m 前後の隅丸方形状の形が想定され、壁柱穴と思われる遺構も確認されます。石囲炉は一片 80 ㎝程の綺麗な四角形であり、石囲炉の中からは縄文時代中期後半の状態の良い土器片が複数確認されています。

7029SI は推定で直径 4.5m 前後の、五角形状の形が想定されます。柱穴は壁柱穴と支柱穴が共に確認され、石囲炉は一度壊れた後、再度石を積み直し補修して使用した痕跡が見られました。また、壊れる前の石囲炉には石囲炉本体に付属する形の、小さな副炉(ふくろ)が確認されました。7029SI の石囲炉からも縄文時代中期後半の状態の良い土器片が複数確認されています。

7010SL は土器の埋設された炉跡で、土器埋納炉跡(どきまいのうろあと)であると想定されています。穴を掘ったのち底部を欠いた土器を立位(りつい)の状態で埋めて使用したと想定され、一部入れ子状に別個体の土器が追加されたようです。

（2- 4）22A 区

22A 区は幅の狭い調査区ですが、方形状の落ち込みを 2 箇所検出しました。3001SX と 3002SX は 22A 区の黒褐色の土層から検出された遺構であり、3001SX が 3002SX を切っている関係にありました。当初は方形の竪穴状遺構が想定されましたが、どちらの遺構も柱穴や炉跡などは床面で確認されず、3002SX からは山茶碗(やまぢやわん)類の小皿(こざら)が確認されたので、中世の耕作地とそれに伴う耕作土であったと思われます。

また、調査区北壁では、中世の耕作土、縄文時代中期以降遺物包含層に相当する堆積層、土石流堆積層、地山の関係を一望できる記録をとることができました。地形が南側の川側に向かって傾斜しており、特に土石流堆積層が厚く堆積している様子を見ることができました。

22Ba 区 土器埋納炉跡7010SL(南より)

（2- 5）22Bb 区・22C 区

22Bb 区と 22C 区も、22A 区と同様の層序が確認されています。土石流堆積の上面には旧耕作土の広がりが見つかりましたが、本来は縄文時代中期以

22Ba区 竪穴建物跡7029SI(南より)

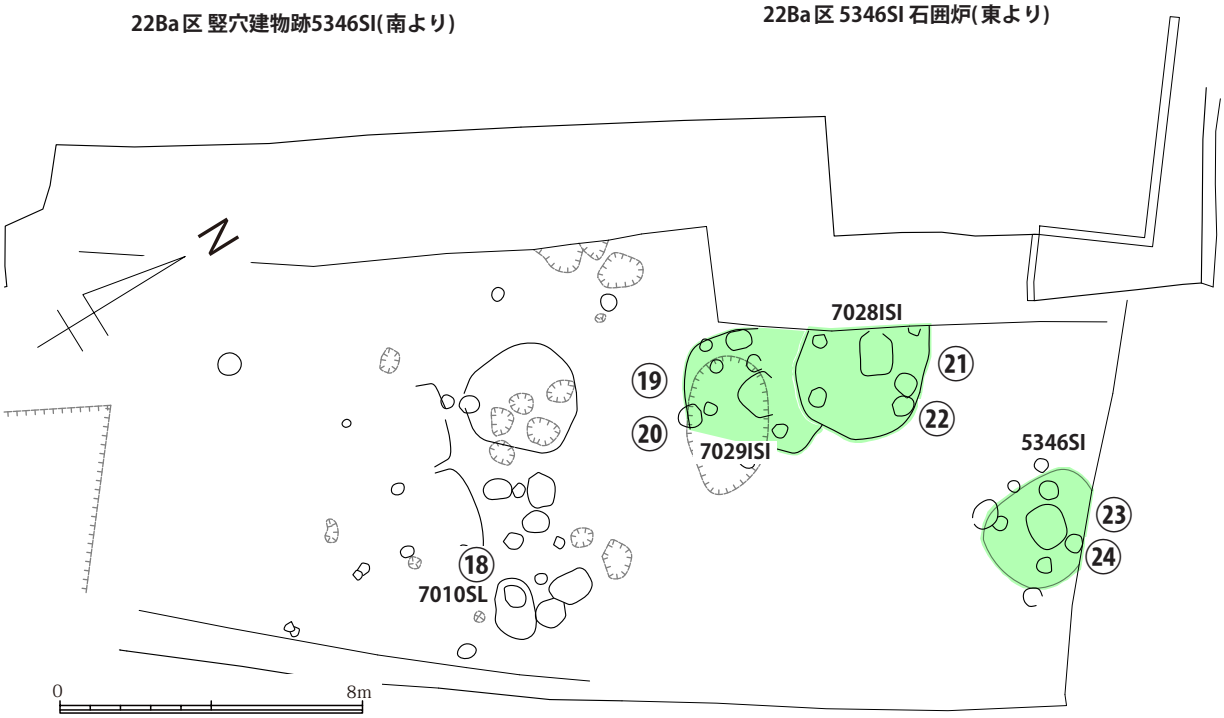
22Ba区 7029SI 石囲炉(南東より 白矢印が副炉)

22Ba区 竪穴建物跡7028SI(東より)

22Ba区 7028SI 石囲炉(東より)

22Ba区 竪穴建物跡5346SI(南より)

22Ba区 5346SI 石囲炉(東より)



下延坂遺跡 22Ba 区 3 面目【縄文時代中期中葉～後半】(緑色は竪穴建物跡など)

22A 区 調査区土層断面写真（南より）

降の包含層であったため、細片化された土器片や石器が多数出土しました。土石流堆積は斜面山側で層厚 50cm 以上に及ぶものの、境川側に向かって層の厚さが薄くなる傾向にあります。調査は、中世以降の耕作土の調査（１面目）を行ったあと、土石流堆積層を除去した黄褐色シルトもしくは粘土層の上面（２面目）での調査となりました。

炉跡 6096SL は 22C 区と 22B 区の境付近で確認された直径約 1m 前後の遺構で、22B 区１面目の中世の耕作域であったと思われる茶褐色の土層より検出されました。炭化物と焼土が良好な状態で纏まって出土しており、鉄片が１点確認されました。付近に竪穴や柱穴などの建物跡の痕跡は確認されなかったので、中世以降の屋外の鍛冶遺構（かじいこう）であると思われます。

5056SI と 5058SI は 22Bb 区の２面目の南端、茶褐色の土層より検出された縄文時代早期後葉と推定される直径約 3m 前後の円形の竪穴建物跡です。5056SI が竪穴建物跡 5058SI を切っている前後関係です。トレンチの断面では床面と思われる平坦面と立ち上がりが確認されましたが、残念ながら柱穴などの遺構や遺物は確認されませんでした。

6099SK と 6100SK は 22C 区２面目の南東、茶褐色の土層で確認された良好な縄文土器のまとまりを伴う土坑であり、直径 1m 前後の楕円形の 6099SK を直径 80 ㎝前後の同じく楕円形の 6100SK が切っている関係です。6099SK と 6100SK はそれぞれ別個体の縄文土器を伴っており、時期はどちらも後期の土器と思われます。6099SK は更に２層に分けられ、下層では被熱した拳大の礫が数点、同じく被熱した 40 ㎝前後の巨礫が出土し、焼土も確認されました。石囲炉であったものを解体し、土器と共に埋めた可能性が考えられます。

22A 区 3001SX(奥)と3002SX(手前)(南より)【中世】

22Bb 区 5056SI(中央)と5058SI(右)(東より)【早期後半】

22C 区 6096SL 焼土出土状況(北から)【中世以降】

22C 区 6099SK 縄文土器出土状況(西から)【縄文時代後期】

22C 区 6101SK 遺物出土状況(北から)【縄文時代早期後半】

5056SI と 5058SI は、22Bb 区と 22C 区境の川側で見つかった遺構です。径 4m 弱の円形状を呈する浅い落ち込みです。中央に炉跡などは確認されていませんが、5056SI 中央付近からは早期後半の繊維土器(せんいどき)片が出土しました。竪穴建物跡であった可能性が考えられます。

6101SK は、6099SK からの 2m ほど南側で見つかった土坑です。平面径 50cm ほどの断面皿状の形のものではありますが、ここでも縄文時代早期後半の繊維土器が大型破片の状態で出土しました。

以上の早期の遺構は、土石流堆積による削平を免れたものと考えられます。22Bb 区と 22C 区の川側では、安山岩(あんざんがん)の剥片が散在して出土しており、本来であればもっと広い範囲に縄文時期早期の集落跡などが展開していたものと考えられます。

滝瀬遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター　鈴木恵介

所在地：北設楽郡設楽町八橋タキセ（北緯35度07分12秒 東経137度34分52秒）
調査期間：令和４年11月～令和５年１月
調査面積：1,395㎡
調査担当者：永井宏幸・鈴木恵介

立地と環境

滝瀬遺跡は設楽町八橋地区の境川右岸の河岸段丘から丘陵斜面にかけて立地します。今年度の調査区は、滝瀬遺跡の中では境川の最も下流にあたります。現在の地表面の標高は421mですが、調査で検出された地山層の標高は419.5m～417mであり、かなり深く1.5m～4mもの掘削を行いました。境川に近い部分は川の流れによって削られたようで、さらに深くなっていました。

調査成果の概略

調査の結果、県道寄りの標高の高い部分には遺構面が残っており、縄文時代後期の土坑１基(2016SK)を検出し、時期不明の土坑2062SKからは縄文時代草創期の尖頭器が出土しました。調査区の南半部は川に向かって標高は下がり遺構数は減少しました。

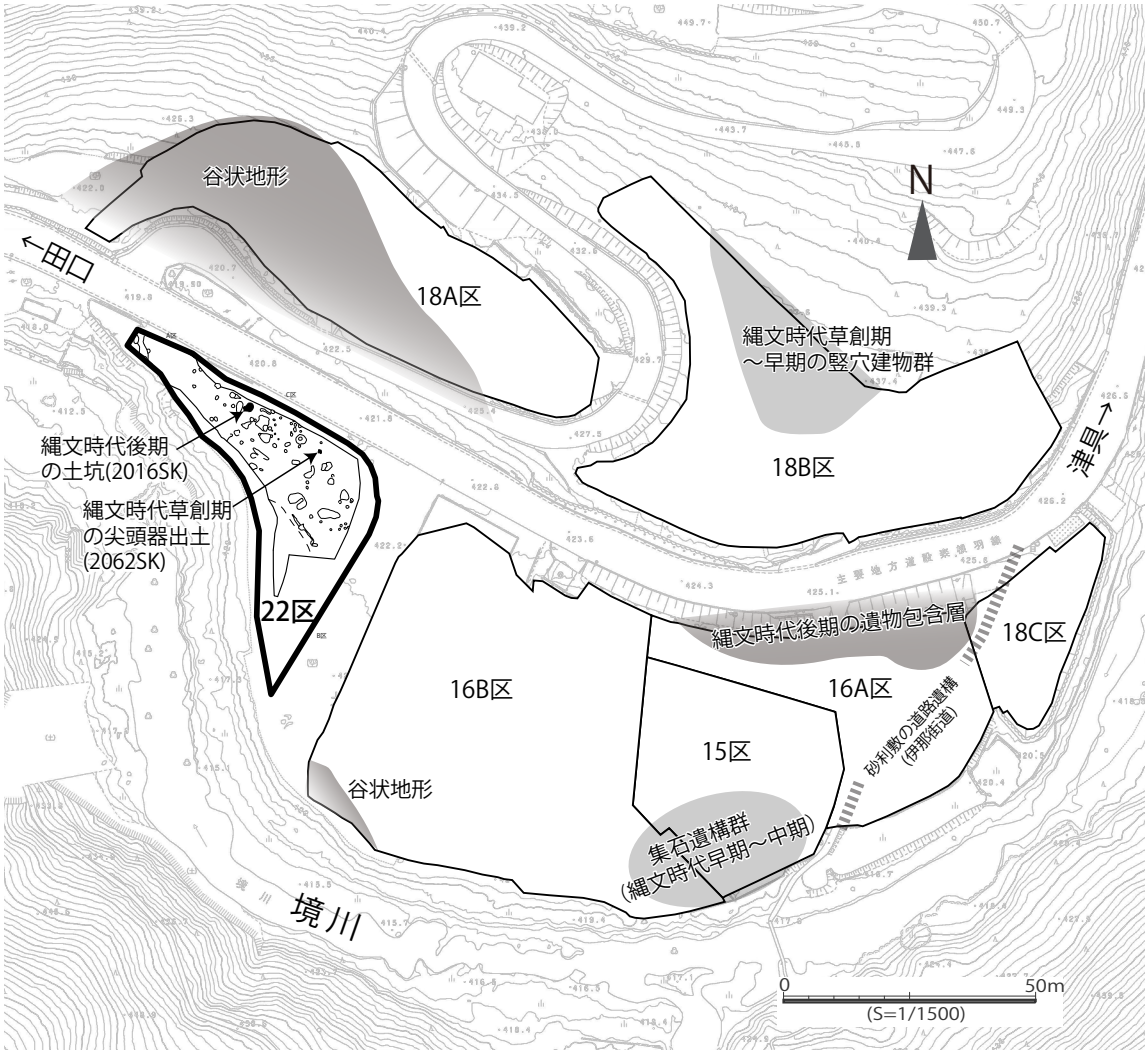
今年度の発掘調査では、遺構や遺物の出土量は少なくなりましたが、この原因と思われるのが、18A区の調査結果で明らかになった谷状地形（27頁図左上）の存在です。この谷状地形は今年度調査区の県道を挟んですぐ北側にありますが、この谷状地形ができる時に今年度調査区付近も土砂が流れて地面が削平された可能性があると考えられます。

滝瀬遺跡 全景（南西より　22区は中央下矢印）

これまでの調査の概要

滝瀬遺跡は、これまで2015年度（15区）、2016年度（16A区・16B区　）、2018年　度（18A区・18B区・18C区）に発掘調査が行われてきました。今年度も含めての調査面積を合計すると、15,000㎡以上になります。

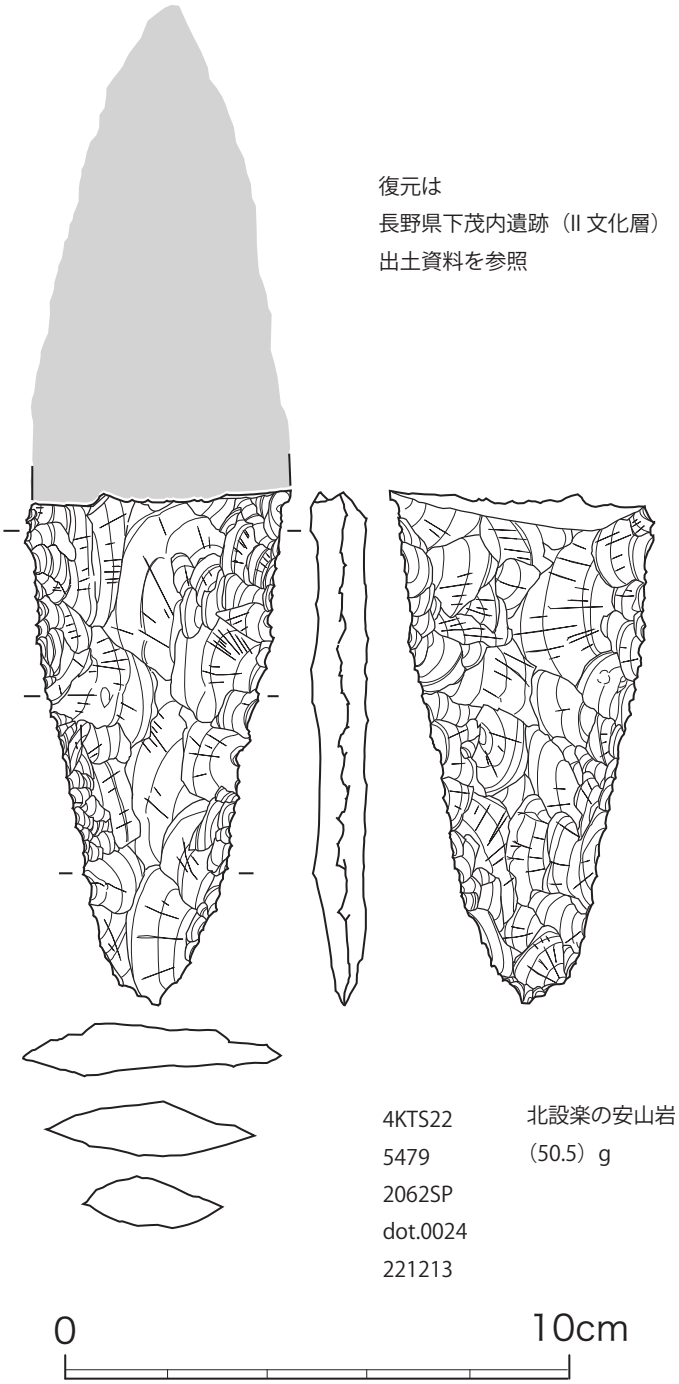
2018年度の調査では、縄文時



滝瀬遺跡調査区配置図

代草創期～早期の竪穴建物群の検出が大きく報道されましたが、その他にも過去の調査の中で遺構・遺物が集中して検出された部分(色塗り部分)はいくつもあり、河岸段丘や丘陵の中で平坦な場所をうまく利用して居住域(きょじゅういき)や加工の場としていたようです。また、遺構・遺物が集中していない部分(白い部分)であっても、竪穴建物跡(たてあなたてものあと)や炉(ろ)跡などが検出されており、全体として遺構・遺物が多く検出される遺跡です。

遺構が形成された当時の地形(平坦面や緩斜面)などの条件や、後世の斜面崩落(ほうらく)、川の増水など様々な原因によって遺構・遺物の密度に差ができていますが、縄文時代の遺構・遺物は調査範囲の東側、15区、16A区、18B・18C区付近に多く存在するため、滝瀬遺跡の中心部はこの周辺にあったと考えられます。近世の伊那(いな)街道と推定される遺構も16A区、18C区で確認されていることから、縄文時代まで遡っても人々の行き来する場所は同じような状況であったのかもしれません。



土坑2062SK出土尖頭器

滝瀬遺跡2022年度調査区（22区）　2062SK出土尖頭器

縄文時代草創期（今から1万3000年前頃）のものと考えられる尖頭器（基部）。出土した土坑は新しい土で埋まった可能性が高いですが、斜面の上の方から転がってきて埋まったと考えています。

詳しい情報は設楽発掘通信77号の4ページを参照してください。

2062SK　尖頭器出土状況

2016SK(縄文時代後期の土坑)の断面

2062SK出土　尖頭器

22区　空中写真(直上：上が北、境川と近い)

東壁の堆積(黒い土が近現代の水田跡、段になっている)

中央部分の作業風景(左側に地盤が下がる)

南半部の最深部分(深さ4.5m)

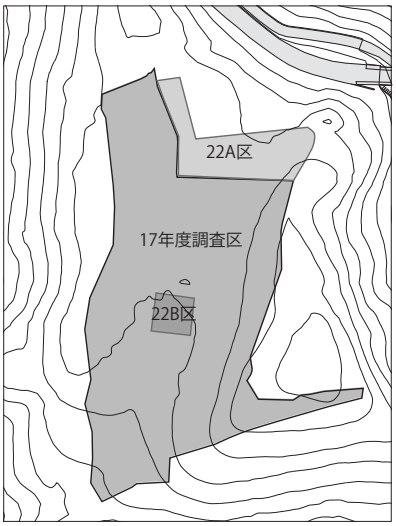
大畑遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター　社本有弥

所在地：北設楽郡設楽町川向字大畑（北緯35度06分33秒 東経137度33分58秒）
調査期間：令和4年10月～12月
調査面積：2,080㎡
調査担当者：永井宏幸・社本有弥

立地と環境

大畑遺跡は、境川と戸神川の合流点北東側に位置しています。両河川は遺跡を挟んで標高約370mの谷底を流れていますが、遺跡はそこから崖や急斜面で隔てられた山地の頂部に所在し、標高は430～446mとなっています。その頂部には、東西2か所に南北方向に細長い平坦面を有する尾根があり、それらにはさまれて南側へ抜ける谷地形が存在しています。



大畑遺跡調査区位置図

調査の成果

当遺跡は平成29年度に一度調査が行われており、縄文時代中期後半から後期の竪穴建物跡や縄文時代の陥し穴などが調査されました。

今年度調査は前回調査した調査区から北東に延長した箇所を22A区、前回調査ができなかった鉄塔の跡地を22B区として調査を行いました。

基本層序は、1層：表土、2層：黒色土層、3層：褐色土層、4層：褐色～黄褐色土層の漸移層、5層：黄褐色土層が確認されています。遺構は4層で確認されました。また22A区西部では褐色～黄褐色土層の漸移層より上が現代の開墾等のため削平・盛土が行われていました。

22A区

22A区は東西から調査区中央北に向かって落ちる谷地形になっています。調査区東の傾斜が急な箇所には遺構・遺物は展開せず、調査区中央の緩斜面

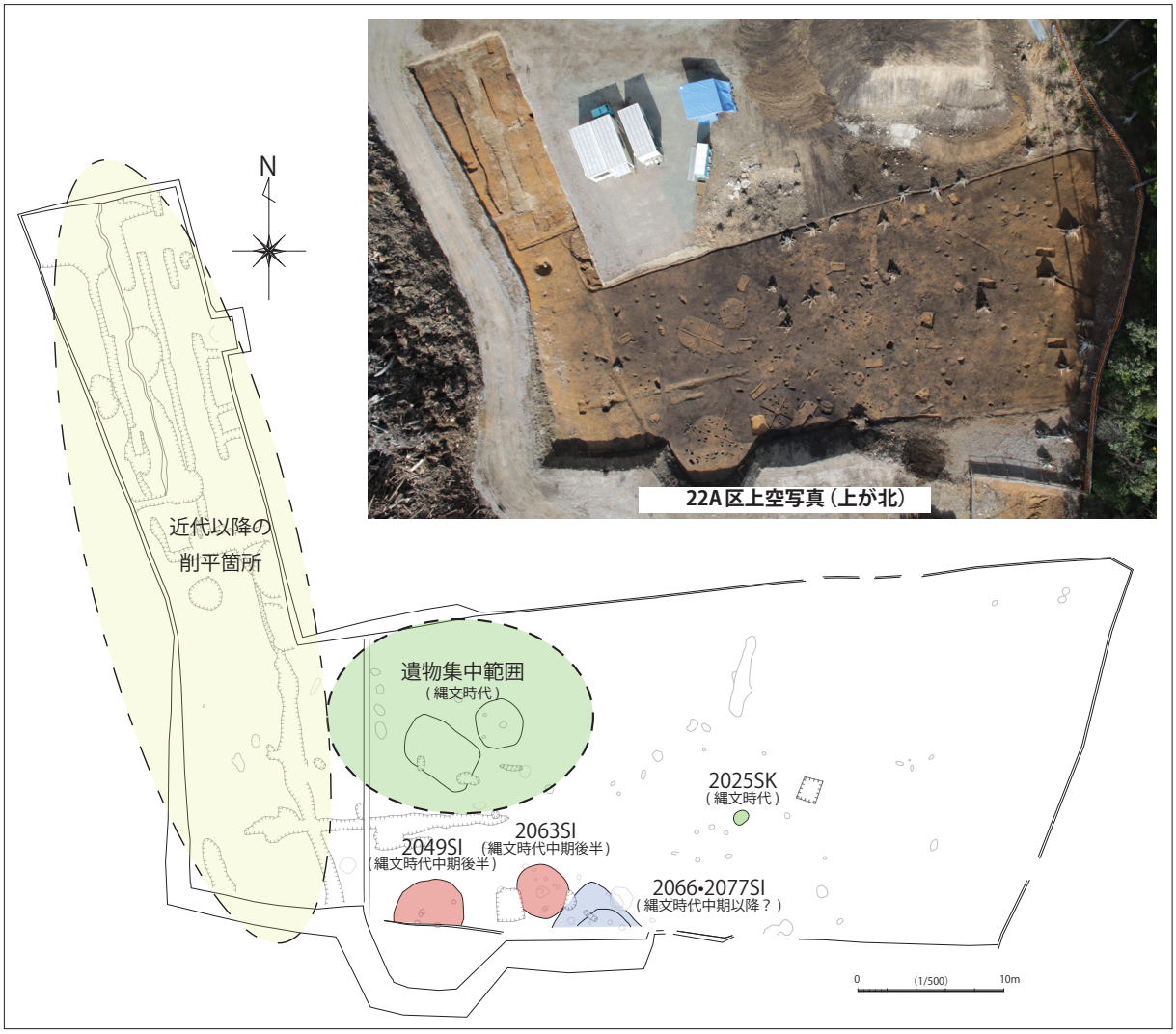
大畑遺跡の層位と遺物・遺構一覧

層位	時期	遺物	遺構
表土	－	－	－
2層	－	－	－
3層	縄文時代中期後半～弥生時代前期	縄文土器、弥生土器、石器(石鏃、打製石斧等)	包含層
4層	縄文時代中期後半～弥生時代前期	縄文土器、弥生土器、石器(石鏃、打製石斧、石核、叩石等)	竪穴建物跡(4)、陥し穴(1)、土坑(2)
5層	－	－	－

地に展開していました。遺構としては竪穴建物跡４基、陥し穴１基を調査しました。

竪穴建物跡 2049・2063SI は円形で、2049SI では柱穴と思われる箇所はありますが、炉は確認できませんでした。2063SI では柱穴２基と炉跡（ろあと）を確認しました。時期は縄文時代中期後半と考えられます。2066・2075SI は隅丸方形（すみまるほうけい）の竪穴建物跡の一部と考えられます。炉跡は確認できませんでしたが、柱穴が確認されています。特に 2075SI には壁際に溝が掘られていたことがわかりました。縄文時代の遺構と思われますが、時期を表す遺物は出土していません。陥し穴は調査区中央東の斜面地で見つかりました。長径約１m、深さ約 70cm で、中央に杭（くい）を刺していた穴が見つかっています。

また、調査区中央に剥片（はくへん）を中心として、石器が集中して出土する箇所（遺物集中範囲）が確認されました。剥片が多くを占めているが石核（せっかく）や折損した石鏃、未製品などが出土しており、石器の捨て場のような場所であったと考えらます。



大畑遺跡22A 区全体図

22A区 遺物集中箇所

22A区 2025SKの完掘状況

22A区 2063SIの調査状況

22A区 2063SI出土の石匙

22A区 2066・2077SIの調査状況

22A区 遺物集中範囲の調査(2062SX)

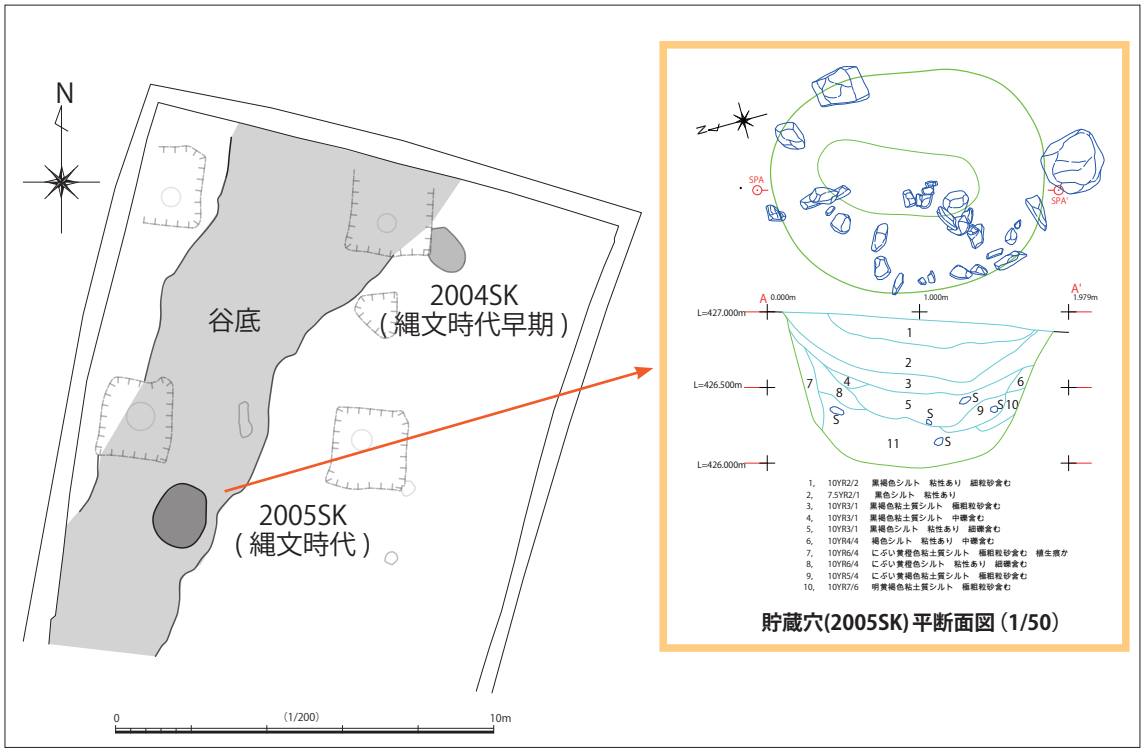
22A区 2049SIの調査状況

22A区 竪穴建物跡群　（上が北）

22B 区

22B 区は調査区西で見つかった谷底に向かって東壁から緩やかに下がる地形が確認できました。谷底に近い所であったためか遺構・遺物の出土は多くはありませんでした。遺構は土坑が２基検出され、そのうち一基は貯蔵穴（ちょぞうけつ）と考えられます。

貯蔵穴 2005SK は谷底で検出され、長径約 1.7m、深さ約 1m と比較的大きく、何度か掘り返された痕跡があることから貯蔵穴と考えられます。遺物は出土しておらず、時期は不明です。今のところどんぐり等の種子の類も確認されていません。土坑 2004SK は長径 1.5m、深さ 10cm と浅い土坑で、埋土から縄文時代早期末から前期初頭ごろの土器片がまとまって出土しています。



22B 区遺構位置図

22B 区 2005SKの土層断面（西より）

22B 区 2004SK 遺物出土状況（北東より）

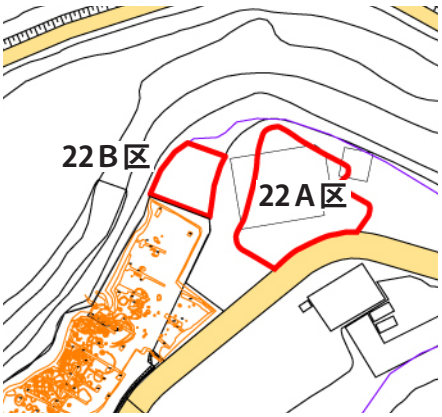
マサノ沢遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター　永井宏幸（発表）・社本有弥（資料作成）

所在地：北設楽郡設楽町小松字マサノサワ（北緯35度07分04秒 東経137度34分35秒）
調査期間：令和４年12月～令和５年２月
調査面積：1,000㎡
調査担当者：永井宏幸・社本有弥

立地と環境

遺跡は、豊川水系に属する寒狭川の支流である境川の左岸に形成された幅狭な段丘面に位置しています。遺跡付近は山腹に造成された県道によって地形が改変されたものの、境川が大きく蛇行する地点にあたり、北東から南西にかけて広がる緩やかな緩斜面に立地しています。平成 29 年度に調査が行われており、縄文時代後期を中心とする墓地関連遺構と縄文時代晩期後葉から弥生時代前期にかけての土器棺墓が確認されていました。また、ハート形土偶というハート形の顔を持つ土偶の胴体が東海地方で初めて出土した遺跡でもあります。



マサノ沢遺跡 令和4年度調査区位置図

調査の成果

前回調査区の北側、下段を 22A 区、上段を 22B 区として調査を行いました。

基本層序は 1 層：表土、2 層：暗褐色土、3 層、黒褐色土、4 層：黒色土、5 層：黒色土と黄褐色土の漸位層、6 層：黄褐色土となっていました。下層にいくにつれて砂質が強くなっていくことがわかっています。遺物は 4 層の下部で出土し、5 層で遺構が確認されました。

22A 区

22A 区では調査区の東側は近代の削平のためか、遺構・遺物はありませんでしたが、地形的に少し低い西側で遺構・遺物が残存していることがわかりました。時期は縄文時代中期後半・縄文時代晩期・弥生時代前期が確認されています。

マサノ沢遺跡の層位と遺物・遺構一覧

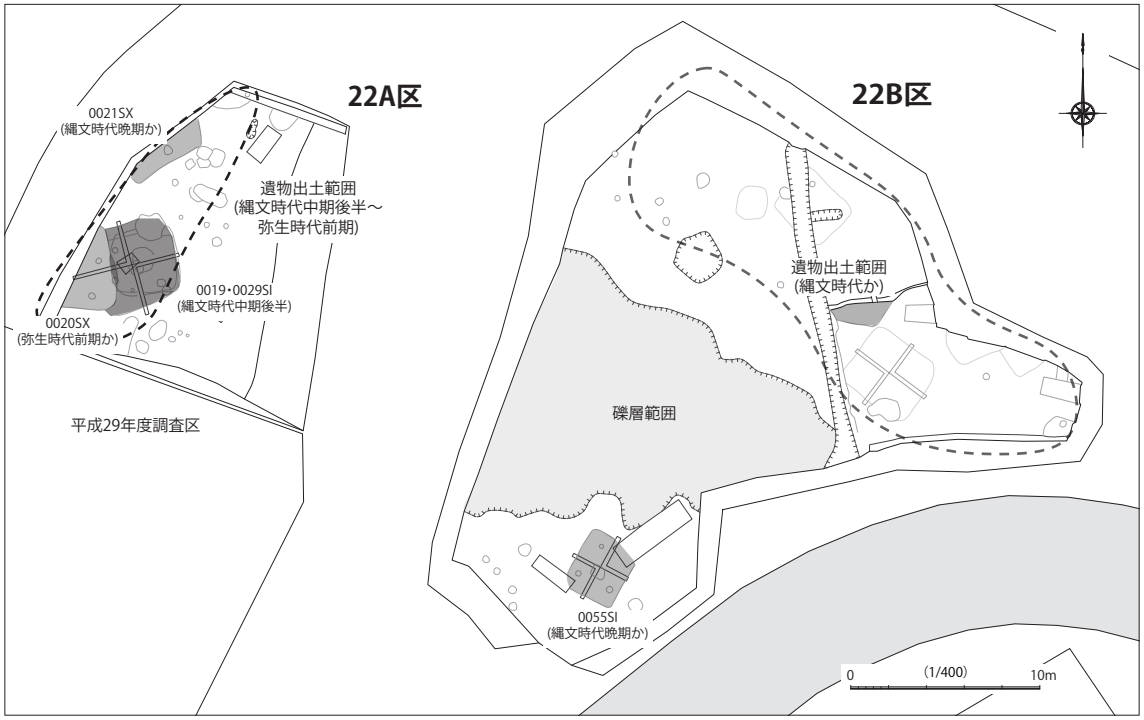
層位	時期	遺物	遺構
表土	–	–	–
2 層	–	–	–
3 層	–	–	–
4 層	縄文時代中期後半～弥生時代前期	縄文土器、弥生土器、石器(石鏃、打製石斧等)	包含層(4層下部)
5 層	縄文時代中期後半～弥生時代前期	縄文土器、弥生土器、石器(石鏃、石鏃、打製石斧、石核、叩石等)	竪穴建物跡(４)、陥し穴(１)、土坑(６)
6 層	–	–	–

縄文時代中期後半は石囲炉を持つ竪穴建物跡が重複して見つかりました (0019・0029SI)。0019SI の石囲炉（0027SL）は廃絶するにあたって石の抜き取りが行われたようで、炉を作った痕跡と一部の礫が残っているのみでした。0029SI の石囲炉 (0033SL) は大型で、長径 120cm 深さ 50cm ほどあり、片麻岩と花崗岩の巨礫や大礫で構成されていました。調査を進めるとこの石囲炉の外に別の遺構があることがわかり、おそらく一段階古い炉跡があったと考えています。

縄文時代晩期は竪穴建物跡と思われる遺構の一部が見つかっています (0021SX)。この遺構の中からは土器片の出土はないものの、打製石斧や縄文時代晩期に見られる飛行機鏃が出土しました。

22A 区 0027SL

22A 区 0033SL



マサノ沢遺跡 21区 遺構位置図

弥生時代前期の遺構は竪穴建物跡の一部が見つかっています (0020SX)。埋土から弥生時代前期の土器片や剥片(はくへん)が出土しています。柱穴は確認されましたが、炉跡は確認されませんでした。

飛行機鏃出土状況

22A区 0020SXと0019SIの調査状況

22A区 深鉢胴部が埋設された土坑

22A区 縄文時代の貯蔵穴か(0015SK)

22A区 0020SX上面　遺物出土状況

22A区空撮写真　（右が北）

22B 区

22B 区は調査区の西部で古い時代の礫層が露出しており、ここから東西に下がる地形が確認されました。現代の削平が著しく、調査区の東部では遺物の出土がありましたが、西部では遺物包含層まで削平されていました。遺構・遺物は調査区の東部と西端で確認されました。縄文時代のものと考えられる大型の土坑や縄文時代晩期と考えられる竪穴建物跡が確認されています。

調査区東部の遺構群では縄文土器と思われる遺物や石鏃・打製石斧などの石器類が出土していますが、時期を決定するような遺物は確認されていません。遺構は貯蔵穴と思われる大型の土坑と小型の土坑数基でした。中でも調査区北で見つかった土坑は被熱した礫や炭化物が埋土から出土し、土も焼けているように見えることから、削平された炉の一部が残存していたと考えられます (0056SK)。周辺には土坑が数基見つかっており、竪穴建物跡があった可能性があります。

調査区西部では竪穴建物跡が 1 棟確認され、埋土から縄文時代晩期の土器片や安山岩製の剥片が出土しました (0055SI)。0055SI は南北にやや長い隅丸方形で、柱穴三基と中央に地床炉と思われる痕跡が見つかっています。

22B区出土　下呂石製？石鏃

22B区 0041SK　貯蔵穴か

22B区 0056SK土層断面

22B区 0055SI完掘状況

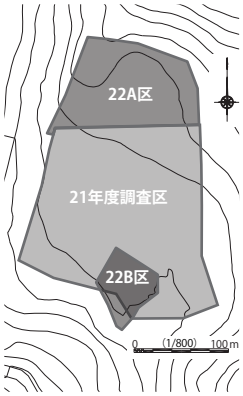
大崎（おおさき）遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター　社本有弥

所在地：北設楽郡設楽町田口字大崎（北緯35度06分18秒 東経137度33分50秒）
調査期間：令和４年５月～令和４年10月
調査面積：2,985㎡
調査担当者：永井宏幸・川添和暁・渡邊　峻・社本有弥

立地と環境

大崎遺跡は境川東岸、河岸段丘状（かがんだんきゅう）の緩斜面（かんしゃめん）地上に立地しており、標高 365m ～ 377m となっています。当地は現在の田口集落西にある丘陵尾根が境川に向かって伸びる末端付近に当たり、遺跡の北と東には丘陵尾根が迫っています。北東側はこれら尾根に挟まれた谷地形で、湧水（ゆうすい）などのためか、調査前までは湿潤な環境となっていました。遺跡範囲内は北東から南西方向への傾斜地で、遺跡中央付近で傾斜の変換点があり、傾斜角度がさらに緩やかとなり南側へと続きます。



大崎遺跡調査区位置図

調査の成果

当遺跡は令和３年度に調査が行われており中世の水田関連遺構（すいでんかんれんいこう）や縄文時代中期から弥生時代の集落の調査を行いました。

調査は前年度調査区の北側に 22A 区、前年度調査区の南に重複する形で 22B 区を設定して調査を行ないました。層序は１層：表土、２層：灰黄褐色粘土層など、３層：にぶい黄褐色粘土・シルト層、４層：黒色粘土・シルト層、５層：明黄褐色粘土・シルト・砂・砂礫層となっている。

今年度調査を見つかった遺構・遺物は以下の通りです。

大崎遺跡の層位と遺物・遺構

時代・時期	検出・出土層	遺構（基数）	遺物
近世以降	表土	集石遺構（3）	陶器片
戦国期～近世	Ⅱ層中およびⅢ層上面	一部の水田関連遺構	陶器片
中世前半		水田関連遺構［畦畔および水路］	山茶碗類【碗・小皿】・伊勢型鍋
古代		水田関連遺構か	灰釉陶器【椀・皿】
縄文時代中期～縄文時代後期	Ⅱ層下およびⅢ層上面	竪穴建物跡（11）土坑(7)・包含層	縄文土器【深鉢等】、石器【石鏃、石匙、打製石斧、磨製石斧、スクレイパー類、叩石、磨石等】
縄文時代早期以前	Ⅴ層直上	土坑１基	剥片

水田関連遺構

水田関連遺構は 22A 区の全域に展開していたことがわかりました。遺構は畦畔(けいはん)、水路(すいろ)、畦畔内の耕作土で構成され、畦畔に囲われた区画は一辺約 3 ～ 4m を主体とする小区画(しょうくかく)を呈していました。

今回の調査では、水路が 2 条あることがわかりました (1006SD・1219SD)。1006SD は調査区西部の北壁面付近から蛇行しながら西側に巡り、21 年度調査区で見つかっている水路 (014SD) につながります。1219SD は調査区東壁付近から西へと伸び、おそらくこのまま昨年度の調査区へとつながっていたと考えられます。そのため、本来の水田関連遺構は昨年度調査区を含め、ほぼ全域に展開していたことが想定されます。調査区東側で見つかっている水田はほとんどが擬似(ぎじ)畦畔の状態で見つかっているのみでした。畦畔を観察すると、一部で畦畔内に焼土塊(しょうどかい)が入っている箇所があり、畦畔を造る際、何らかの造作が行われたものと考えられます。

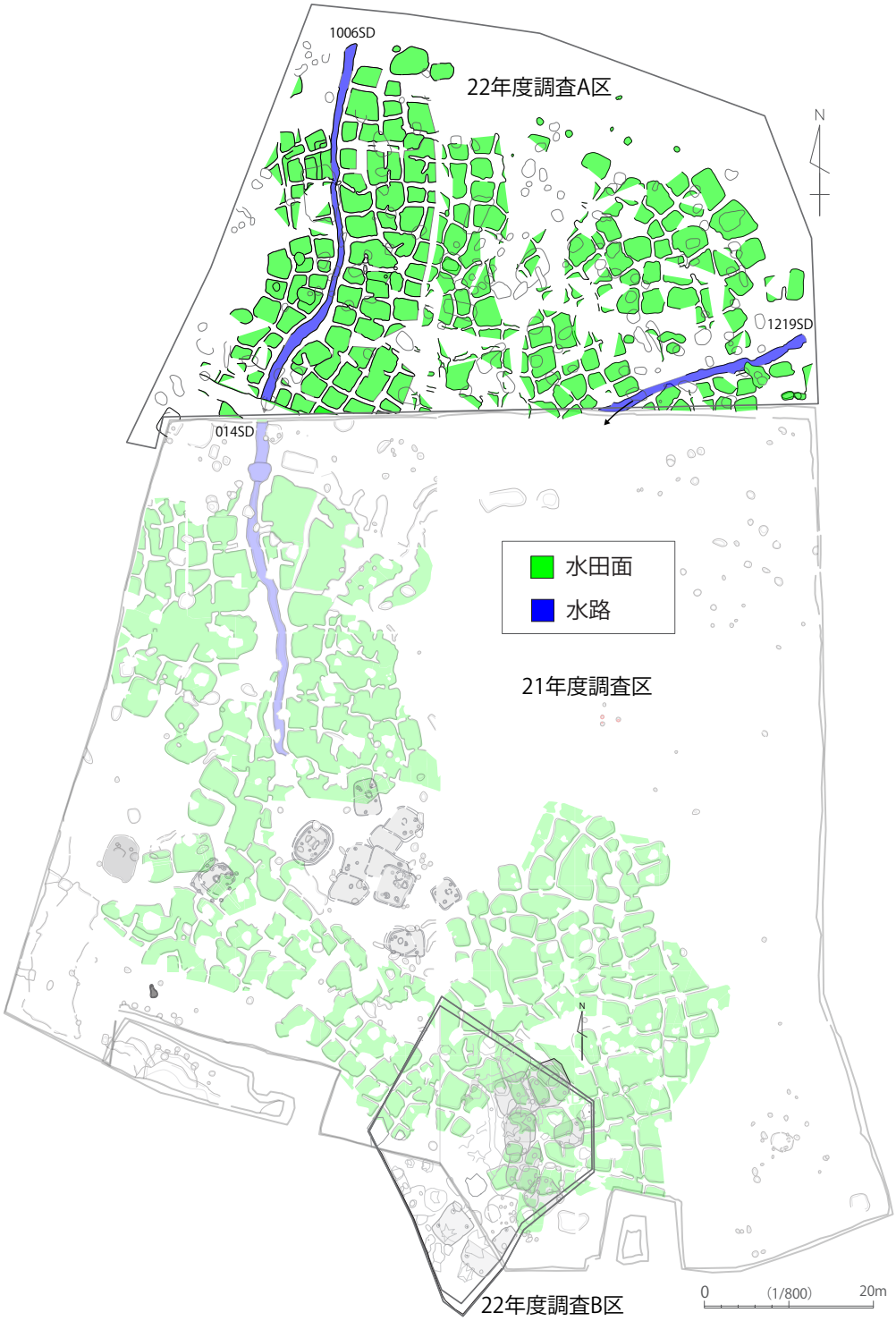
耕作土の中には、縄文時代・弥生時代・古代・中世までの幅広い時代の遺物が出土しました。特に中世に当たる遺物としては山茶碗(やまぢゃわん)と伊勢型鍋(いせがたなべ)を中心として古瀬戸(こせと)や常滑(とこなめ)もしくは渥美(あつみ)窯の陶器片が出土しており、これらが水田関連遺構が使われていた時代の遺物と考えられます。

22A 区 水田関連遺構 (上が北)

22A 区　1006SD 土層断面

焼土の入った畦畔

摺鉢片の出土状況



大崎遺跡全体図１（水田関連遺構　中世前半中心）

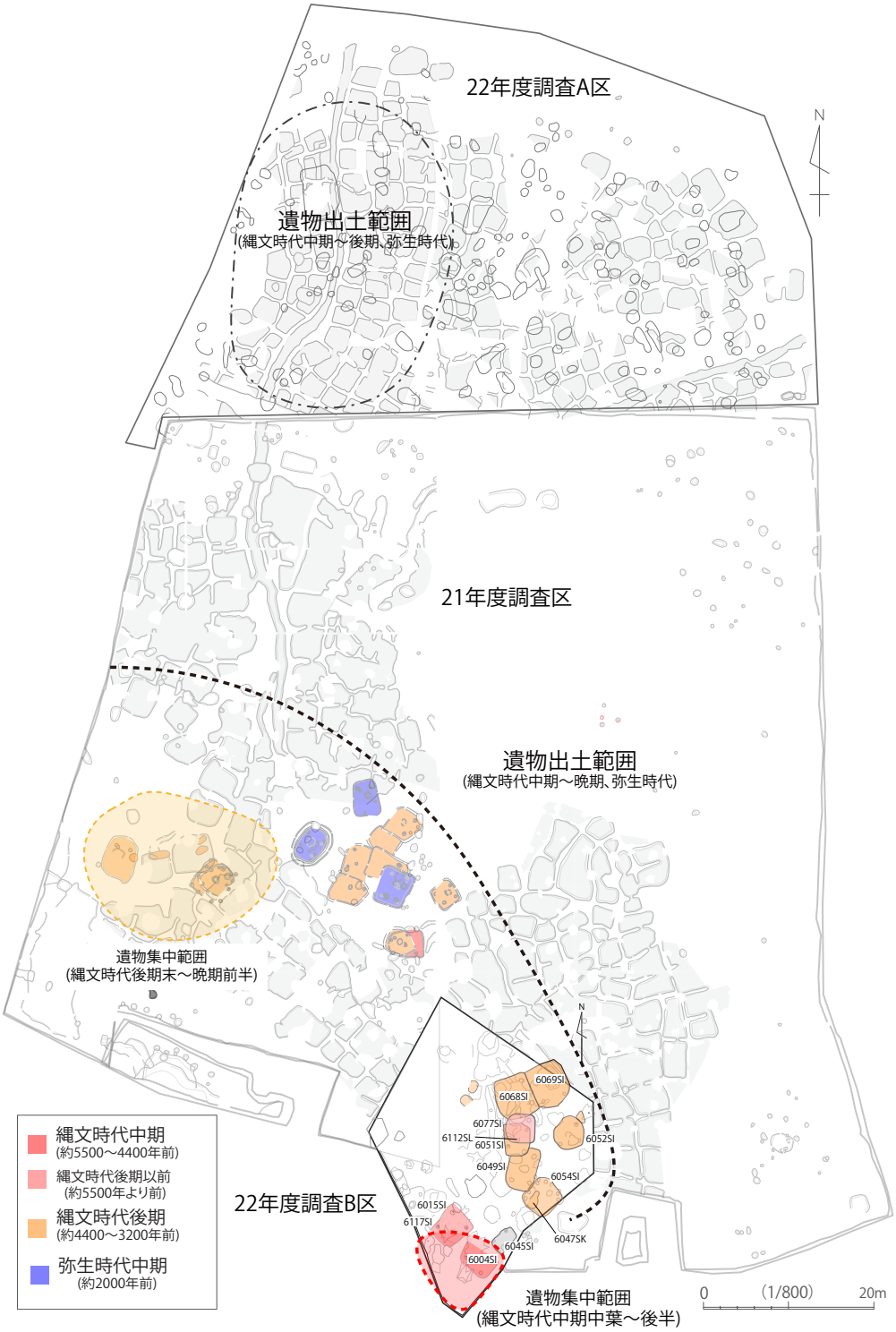
縄文時代中期から後期の集落

22A 区では調査区の西側、水田耕作土の中や水田関連遺構の下面で縄文時代後期から弥生時代の遺物が出土しました。水田の造営に伴って削平されたと考えられ、遺構は見つかっていません。

22B 区では調査区の東と南で縄文時代中期から後期の遺構・遺物が見つかっています。

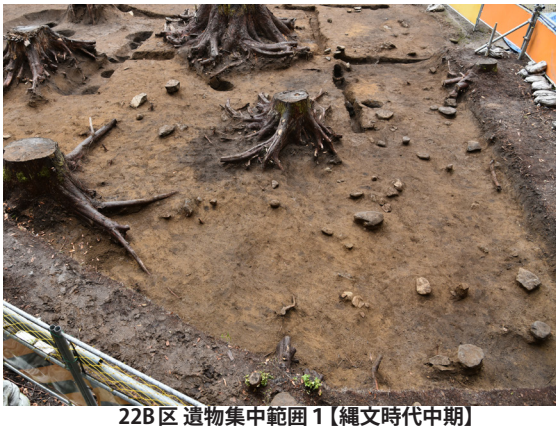
確認された時期は縄文時代中期から縄文時代後期となっています。縄文時代中期は 22B 区の南で確認されました。竪穴建物跡（たてあなたてものあと）３基が見つかっており、うち２基は重複していました (6015SI・6113SI)。重複している竪穴建物跡に注目すると、上の竪穴建物跡は正方形に近い隅丸方形で、石囲炉（いしがこいろ）と思われる炉跡と柱穴が見つかっています。下の竪穴建物跡は隅丸でやや長方形を呈し、複数の柱穴と壁溝と思われる溝跡が見つかりました。また、22B 区の南端付近の傾斜地では遺物が広がって出土していました。出土した遺物の時期は縄文時代中期中葉から中期後半の土器を中心として、安山岩（あんざんがん）製の剥片や叩石（たたきいし）・磨石（すりいし）などの礫石器（れきせっき）が出土しています。川へ落ちていく地形ということから、おそらく使えなくなった土器や石器の捨て場であったと考えられます。

縄文時代後期は、22B 区の北東部に広がっていました。確認された遺構は竪穴建物跡７基、大型土坑４基でした。特に調査区中央付近の竪穴建物跡は４基の竪穴建物跡が重複して見つかりました。今回確認された竪穴建物跡は約３～４m 四方の隅丸方形を主体としますが、円形の竪穴建物跡（6052SI）も見つかりました。特に円形の竪穴建物跡の中央には土器敷炉（どきじきろ）が設けられた痕跡が見つかっています。出土遺物としては、土器片や石器が出土、特に縄文時代後期中葉ごろの土器片が遺構内からまとまって出土しています。



大崎遺跡全体図２（縄文時代中期～弥生時代）

22B区 6113SI竪穴建物跡【縄文時代中期後半】


22B区 遺物集中範囲１【縄文時代中期】

22B区 遺物集中範囲２【縄文時代中期】

縄文時代中期後半の土器

22B区 6052SI竪穴建物跡【縄文時代後期】

22B区 6051SI炉6112SL内出土土器【縄文時代後期】

土坑内出土の打製石斧

22B区竪穴建物跡完掘状況　左が北

縄文時代早期

縄文時代早期の遺構・遺物は22A区の斜面地と22B区の南部で見つかっています。

22A区では斜面地で土坑が数基見つかっており、遺構内や周辺には表裏条痕土器や撚糸文土器片と安山岩製の剥片が散らばって出土していました。22B区では谷地形内に形成された包含層から土器がまとまって出土しました（46・47頁参照）。

今回の調査では竪穴建物跡が確認できなかったが、前年度の調査を踏まえると、当遺跡で縄文時代早期後半以降に何らかの活動があったと考えられます。

縄文時代早期後半の土器片

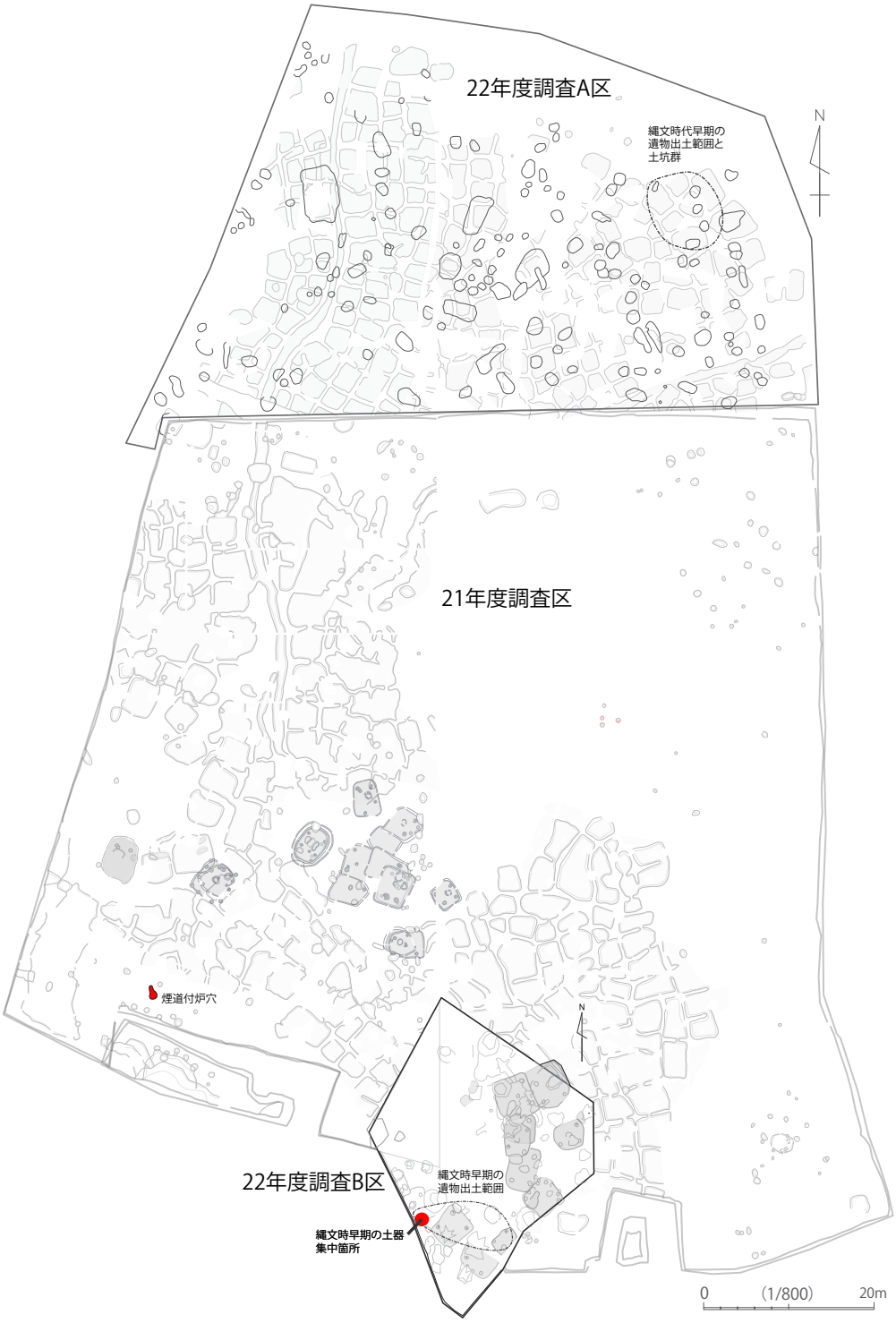
22B区縄文時代早期後半の土器出土状況

22A区土坑内土器出土状況　遠景

22A区土坑内遺物出土状況　近景

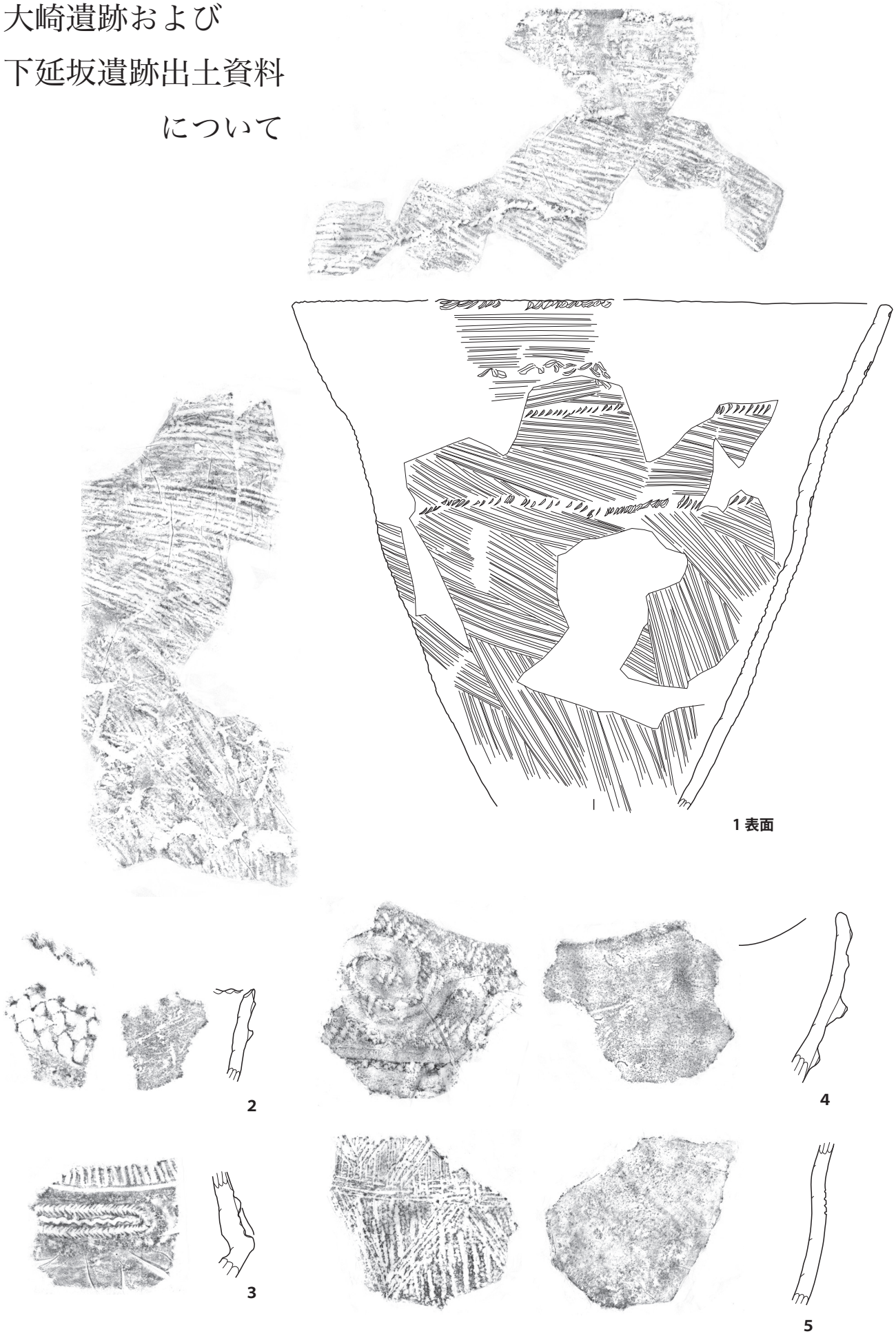
縄文時代早期後半土器出土状況（北より）

前年度調査（21A区）の煙道付炉穴（南より）

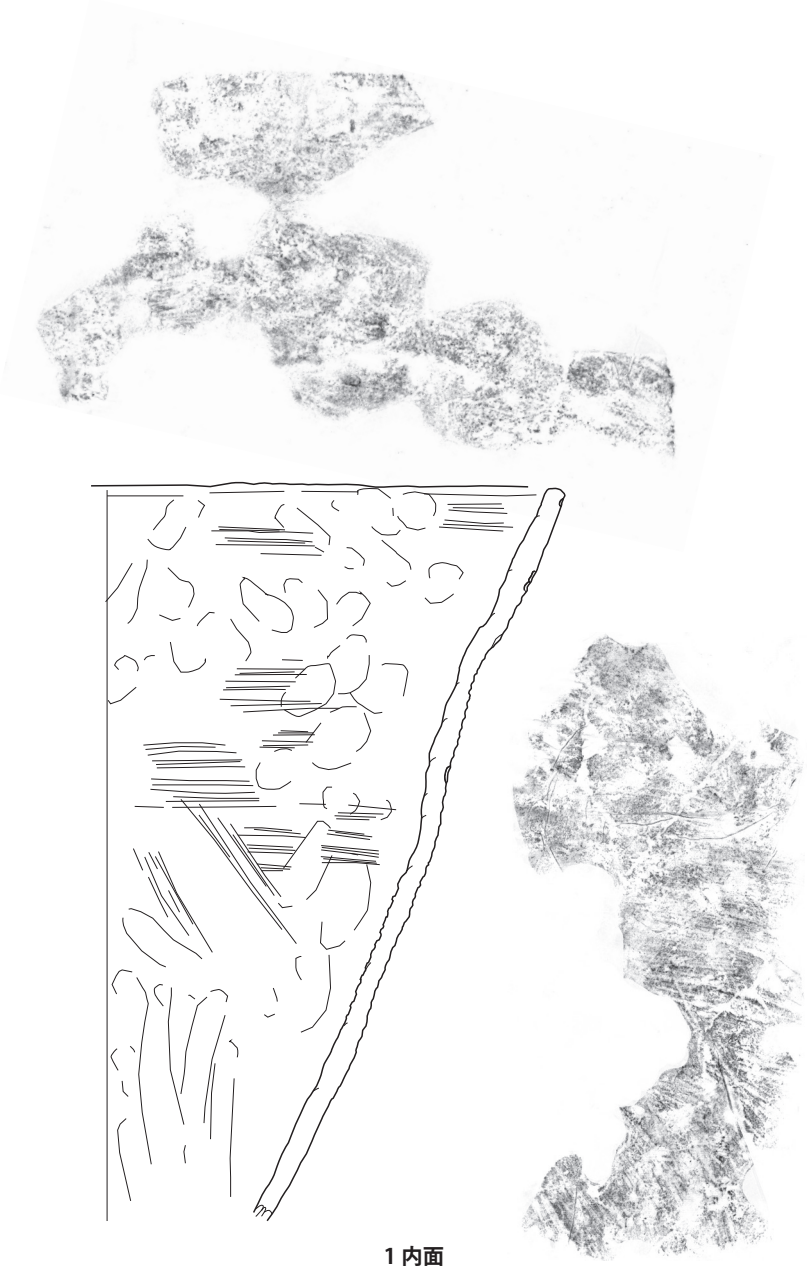


大崎遺跡全体図３（縄文時代早期）

大崎遺跡および下延坂遺跡出土資料について



令和４年度 設楽ダム関連遺跡出土資料１



1 内面

0 (1/3) 10cm

1～5

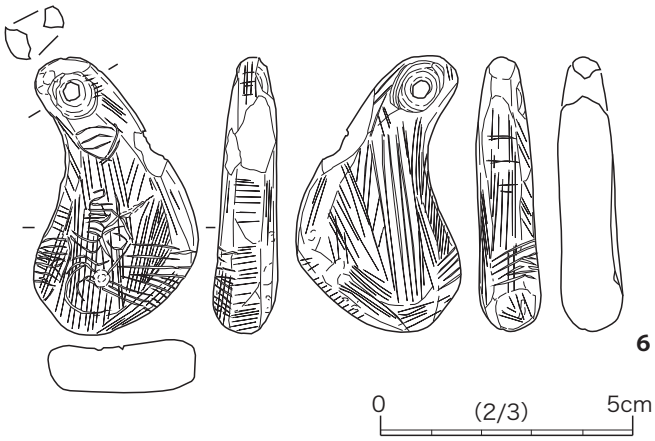
大崎遺跡出土土器（1～5）

1は22B区南端の縄文時代早期包含層内から出土した深鉢です（本紙44頁左最下写真の土器）。胎土に繊維を含むことから、繊維土器といわれているのです。表裏に二枚貝条痕調整があり、口縁や胴部上半には工具による爪形状の連続した刺突列が10ヶ1単位で横方向に施されています。胴部上半に屈曲する段をわずかにつける器形で、八ツ崎Ⅰ式に相当します。2も近い場所から見つかった早期後半の繊維土器片で、上ノ山式と思われます。3～5は中期中葉から後半の資料です。3は信州中部高地系で、5は撚糸文を地文とする西日本系の資料と考えられます。

下延坂遺跡出土石製品（6）

6は22Ba区05301SXから出土しました（本紙21頁）。くの字に曲がった扁平な礫の表面を研磨・ケズリで調整加工し、穿孔や線刻が施されています。図面上側には大きい穿孔が、下側の身部中央には小さい凹みがつけられています。線刻は3条1単位で、脇にはそれらを括るような直線・曲線がつけられています。石製の人形（岩偶岩版類）とも考えられ、時期は縄文時代中期後半の神明式～取組式期と推定されます。石材は当地によくある凝灰質砂岩です。

（川添和暁）



6

0 (2/3) 5cm

年代	時代	主なできごと	愛知県の遺跡	上ヲロウ・下ヲロウ遺跡	下延沢遺跡	大畑遺跡	滝瀬遺跡	マサノ沢遺跡	大崎遺跡
350年前0	後期旧石器時代	台形様石器・ナイフ形石器・局部磨製石斧の出現	上品野遺跡（瀬戸市）						
300年前0	後期旧石器時代	鹿児島県姶良カルデラ（A.T.）の降灰	茶臼山遺跡（豊根村） 駒場遺跡（豊川市）						
250年前0	後期旧石器時代	氷河期が終わる							
150年前0	草創期	土器の発明・弓矢の使用	萩平遺跡（新城市） **川向東貝津遺跡（設楽町）** **滝瀬遺跡・大栗遺跡（設楽町）**						
60年前0	縄文時代 早期	貝塚の形成	多り畑遺跡（豊橋市）						
60年前0	縄文時代 前期	気候の温暖化による海進	大安寺遺跡（豊田市） **鞍舟遺跡（設楽町）** **石原遺跡（設楽町）**						
50年前0	縄文時代 中期		**大畑遺跡（設楽町）** **大根平遺跡（設楽町）** **西地・東地遺跡（設楽町）**						
40年前0	縄文時代 後期	寒冷化し、海退した低地にも生活を始める	モリ下遺跡（新城市） 石岸遺跡（新城市） **笹平遺跡（設楽町）**						
30年前0	縄文時代 晩期	抜歯風習の盛行	**大名倉遺跡（設楽町）** 吉胡貝塚（田原市） 宮嶋遺跡（豊根村）						
25年前0	縄文時代	稲作の開始　環濠集落の出現	麻生田大橋遺跡（豊川市） 桜平遺跡（東栄町） 白石遺跡（豊橋市）						
A.D.1年	弥生時代	土器棺墓群が形成される	瓜郷遺跡（豊橋市） **上ヲロウ・下ヲロウ遺跡（設楽町）**						
300年	弥生時代	金属器の使用・銅鐸の使用	西向遺跡（東栄町）						
600年	古墳時代	女王卑弥呼邪馬台国を統治する 大和政権の出現・各地に古墳の造営 仏教の伝来	欠山遺跡（豊川市） 馬越長火塚古墳（豊橋市） **屋木下古墳（設楽町）** **丸根古墳（設楽町）**						
700年	飛鳥時代	645年　乙巳の変（大化の改新） 710年　平城京遷都							
800年	奈良時代	743年　東大寺大仏建立の詔・国分寺 794年　平安京遷都	三河国分寺跡（豊川市） 白鳥遺跡（豊川市）						
900年	平安時代	藤原氏の摂関政治							
1000年	平安時代	武士の台頭	**大根平遺跡（設楽町）** **胡桃窪遺跡（設楽町）**						
1100年	平安時代	1192年　源頼朝　鎌倉幕府を開く	普門寺跡（豊橋市） ブヤキ窯跡（東栄町）						
1200年	鎌倉時代	元寇（文永・弘安の役）							
1300年	鎌倉時代	1338年　足利尊氏　室町幕府を開く							
1400年	室町時代	1467年　応仁の乱	武節城址（豊田市） **田峯城址（設楽町）** **津具城址（設楽町）**						
1500年	室町時代	1575年　長篠の戦い							
1600年	安土桃山時代 / 戦国期	1603年　徳川家康　江戸幕府を開く	吉田城跡（豊橋市）						
1700年	江戸時代								
1800年	江戸時代								
1900年	近代・現代	1867年　大政奉還							
2000年	近代・現代	1945年　太平洋戦争終結							

※記号の大きさは、遺跡内での活動痕跡の多さを示しています。濃い印は今年度調査で確認された活動痕跡を、薄い印はこれまでの調査で確認されたところです。

マサノ沢遺跡 竪穴建物跡（縄文時代中期後半）

令和４年度
設楽ダム関連発掘調査成果報告会

新設楽発見伝９

配付資料

令和５年３月４日　発行

編集・発行

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター

企画担当・編集　鈴木正貴・永井宏幸・川添和暁

〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方 802 の 24

電話（0567）67 - 4163【調査課】

HP http://www.maibun.com

Facebook https://www.facebook.com/maibunaichi

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun